

Microsoft.AB-100.v2026-08-01.q68

試験コード：	AB-100
試験名称：	Agentic AI Business Solutions Architect
認証ベンダー：	Microsoft
無料問題の数：	68
バージョン：	v2026-08-01
ページの閲覧量：	109
問題集の閲覧量：	852
https://www.jpnsshiken.com/shiken/Microsoft.AB-100.v2026-08-01.q68.html	

質問: 1
ホットスポットに関する質問

あなたは、Microsoft Dynamics 365 Customer ServiceおよびDynamics 365 Salesと統合するMicrosoft Copilot Studioエージェントのテストソリューションを設計しています。エージェントが以下の動作を実行できるかどうかをテストするために、エンドツーエンドのシナリオを設計する必要があります。

- 両方の Dynamics 365 アプリ間でタスクとデータ操作を調整する。
ユーザー入力を解釈し、状況に応じた適切な出力を提供する。

設計に含めるべきテストシナリオとメトリクスはどれですか？回答するには、回答欄で適切なオプションを選択してください。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Answer Area

 Microsoft

Test scenario:

In each app, test isolated tasks without using workflows.

Run task-based scenarios that involve both apps.

Test visual consistency across both apps.

Metric:

Measure the initial prompt response time for each app.

Track the average click rate across both apps.

Track the successful completion of cross-app tasks.

正解:

Answer Area

Test scenario:

- In each app, test isolated tasks without using workflows.
- Run task-based scenarios that involve both apps.
- Test visual consistency across both apps.

Metric:

- Measure the initial prompt response time for each app.
- Track the average click rate across both apps.
- Track the successful completion of cross-app tasks.

Explanation:

ボックス1：両方のアプリを使用するタスクベースのシナリオを実行する

テストシナリオ

タスクベースのテストシナリオ

エージェントがコンテキストを解釈し、データを調整する能力を検証するために、以下のエンドツーエンドのシナリオを実行してください。

シナリオ1：クロスセル機会の発見

タスク：カスタマーサービスでサポート案件を解決する際に、担当者に「このアカウントには現在、販売機会はありますか？」と質問してください。

成功基準：エージェントは営業部門から関連する商談情報を取得し、それを要約し、営業チームへのフォローアップアクションを提案する。

シナリオ2：統合型ケースノード作成

タスク：ユーザーがサポートチャット中に新製品への関心について言及しました。エージェントに指示してください：

「このサポート会話に基づいて、営業部門にリードを創出する。」

成功基準：エージェントが会話履歴を解析し、適切な顧客コンテキストで営業システムにリードレコードを作成する。

シナリオ3：積極的なアカウント健全性チェック

課題：営業会議の前に、「この顧客に関する最近のサポート上の問題点を要約してください」と質問する。

成功基準：エージェントはカスタマーサービス内の未解決チケットを特定し、営業担当者に概要を提供することで、何も知らないまま会議に臨むことを防ぐ。

ボックス2：アプリ間タスクの完了状況を追跡する

メトリック

成功のための主要指標

Copilot Studioの分析タブまたはPower Platform管理センターで、以下の特定の指標を追跡してください。

*-> 解決率（アプリ間）：エージェントが手動介入なしに両方のアプリからのデータを必要とするタスクを正常に完了したセッションの割合。

回避率：従来、営業部門とサービス部門の間で担当者が手動で切り替える必要があった業務において、人的引き継ぎの回数を削減すること。

タスク成功のしきい値：他の「アプリから提供されるコンテキストが正確であることを保証するため、LLMベースの応答の最低品質スコアを定義します。

エージェントによる支援時間の増加：エージェントがこれらのアプリケーション間クエリを実行することで節約できた時間と、人間が手動で実行した場合の時間を測定します。

参照：

<https://walkingtree.tech/dynamics-365-agents-with-microsoft-copilot-studio>

<https://learn.microsoft.com/en-us/power-platform/admin/monitoring/monitor-copilot-studio>

質問: 2

ある企業が、Microsoft Power Automateのデスクトップフローと統合するMicrosoft Copilot Studioエージェントを導入する。

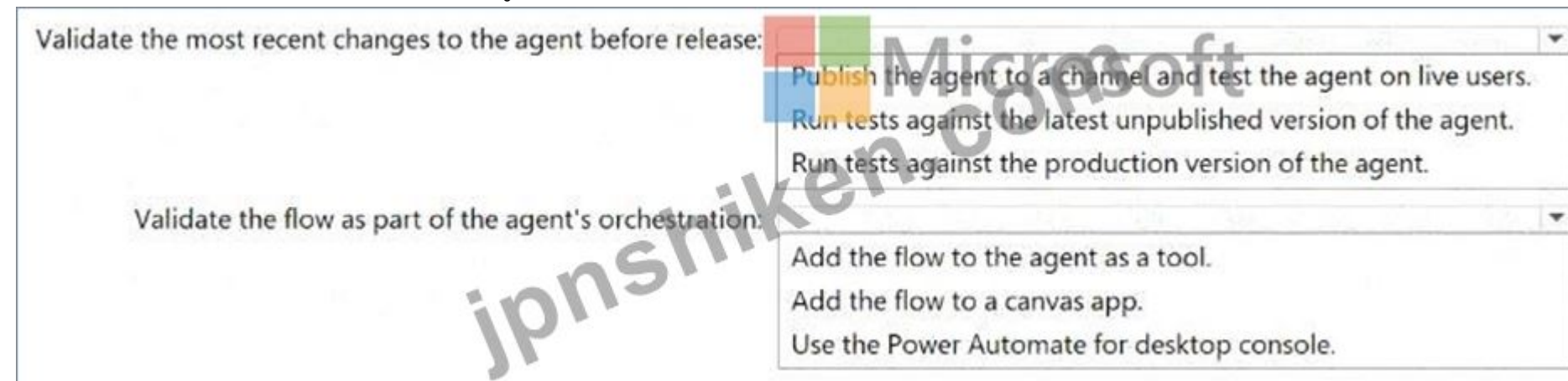
以下の要件を満たすテストソリューションを推奨する必要があります。

エージェントがリリースされる前に、テストケースによってエージェントへの最新の変更点を検証する必要があります。

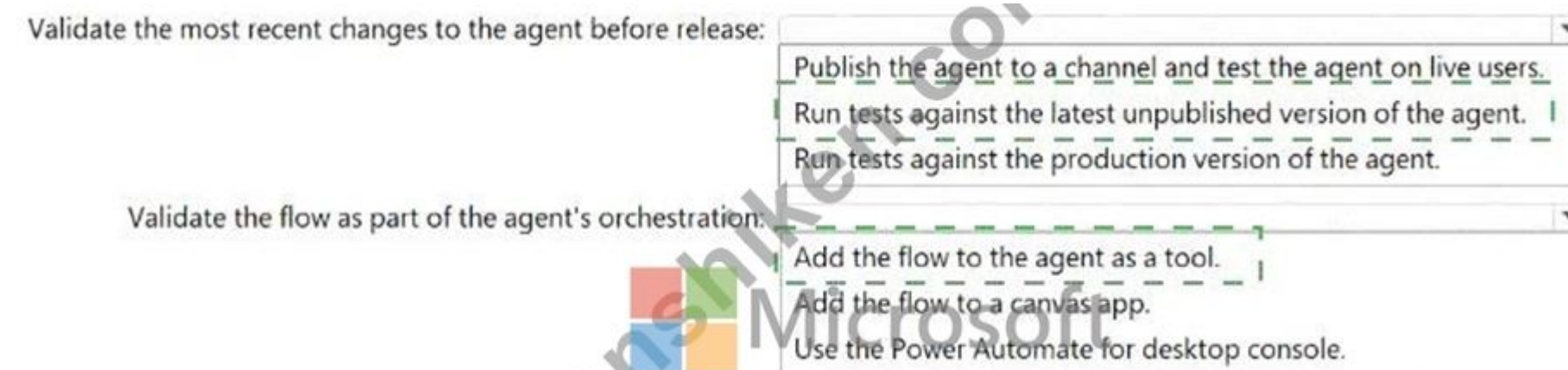
フローは、エージェントのオーケストレーションの一部として検証されなければならない。

それぞれの要件に対して、どのような推奨事項を提示すべきでしょうか？回答欄で適切な選択肢を選んでください。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。



正解:



Explanation:

最新の変更を検証する # エージェントの最新の未公開バージョンに対してテストを実行します。オーケストレーションの一部としてフローを検証する # フローをツールとしてエージェントに追加します 最初の選択肢が正しい理由 要件では、エージェントがリリースされる前に、会社はエージェントの最新の変更を検証する必要があるとされています。つまり、テストは、まだ本番環境に公開されていない最新の動作バージョンで行う必要があります。

したがって、正しい推奨事項は次のとおりです。

エージェントの最新の未公開バージョンに対してテストを実行します。

これは、チームが以下のことを可能にするため、最も安全で適切なリリース前テストパターンです。

- * ユーザーが見る前に最近の変更を検証する
- * 不具合を早期に発見する
- * 制御された状態でオーケストレーションロジックを検証する
- * 生産リスクを低減する

AIビジネスソリューションの観点から見ると、Copilotエージェントのリリース前テストは非常に重要です。なぜなら、プロンプト、ツール、オーケストレーション、データ接続のわずかな変更でも、以下のような影響が生じる可能性があるからです。

- * 応答品質
- * ワークフローの動作
- * エスカレーションパス
- * コンプライアンス行動
- * ユーザーの信頼

未公開の変更をテストすることで、ガバナンスと品質保証がリリース後ではなく、リリース前に確実に実施されるようになります。

2番目の選択肢が正しい理由

また、この質問では、Power Automate デスクトップ フローがエージェントのオーケストレーションの一部として検証されることも求められています。

つまり、フローはエージェントの実行時アクションパスに直接参加する必要があるということです。その正しい方法は次のとおりです。

フローをエージェントにツールとして追加する

フローがツールとして追加されると、エージェントはオーケストレーション中にそのフローを呼び出すことができます。これにより、テストケースは会話レイヤーだけでなく、エンドツーエンドのエージェント動作におけるフローの実際の実行も検証できるようになります。

エージェント型AI設計の観点から言えば、ツールはエージェントが推論と行動を結びつけるための手段です。フローがオーケストレーションの一部となることを意図している場合、エージェントがタスク実行中にそれを呼び出せるように、エージェントに公開する必要があります。

それは、統合された動作を検証するための正しいエンタープライズパターンです。

質問: 3

ある企業はMicrosoft 365 Copilotエージェントを導入している。

エージェント向けのセキュリティソリューションを設計する必要があります。ソリューションは以下の要件を満たす必要があります。

AIの利用に関連する潜在的なリスクを特定し、軽減する。

- AIアプリと、AIアプリによって処理または生成された機密データを保護するエージェント。

- 責任あるAIガバナンスを支援するため、データの保持とログ記録を行う。

相互作用の監視、ポリシー違反の検出、およびインシデントの調査。

設計に含めるべき2つの要素はどれですか？それぞれの正解は、解決策の一部を示しています。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

A. マイクロソフトの視点

B. Azure AI コンテンツセーフティ

C. Microsoft Foundry におけるロールベースアクセス制御 (RBAC)

D. マイクロソフト ディフェンダー

正解: ([正解を表示します](#))

Microsoft 365 Copilot エージェントを保護するには、データガバナンスに Microsoft Purview、リアルタイムの脅威対策に Microsoft Defender を組み合わせた統合ソリューションを導入できます。この組み合わせにより、リスクを特定し、機密データを保護し、継続的な監視とインシデント調査を通じて責任ある AI ガバナンスを確保できます。

参照：

<https://techcommunity.microsoft.com/blog/microsoft365copilotblog/security-and-governance-innovations-for-microsoft-365-copilot-and-agents-from-ig/4476172>

質問: 4

ある企業は、以下のコンポーネントを含むMicrosoft Power Platformソリューションを保有しています。

- * Microsoft Dataverse テーブル
- * WS1という名前のMicrosoft Power BIワークスペース
- * Dataverseを使用するApp1という名前のキャンバスアプリ
- * DirectQuery を使用して Dataverse に接続する Power BI セマンティック モデル。企業データのサブセットに基づいてクエリへの回答を提供するために、生成型 AI を使用する予定です。データが AI システムの基盤となるデータ ソースとして利用可能であることを確認する必要があります。どうすればよいですか？

- A. セマンティックモデルをエクスポートします。
- B. WS1を共有します。
- C. Dataverseテーブルにデータを入力します。
- D. 意味モデルを支持する。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

目標は、企業データのサブセットに基づいて質問に答えるために生成型AIを使用し、このデータが基礎となるデータソースとして利用可能であることを保証することです。

このソリューションには以下が含まれます。

- * Dataverseテーブル
- * Power BIワークスペース
- * キャンバスアプリ
- * DirectQuery を使用した Power BI セマンティック モデル to Dataverse

最善の行動はDです。意味モデルを支持することです。

Dが正解である理由：

セマンティックモデルを支持することで、それは信頼性が高く、発見可能なエンタープライズデータ資産となる。

- * これは、承認された企業データを下流のAIおよび分析エクスペリエンスで確実に使用したい場合に適切な手順です。
- * データの複製や手動エクスポートではなく、厳選されたデータサブセットを基盤となるデータソースとして公開するという要件を満たしています。他のオプションが正しくない理由：
- * A. セマンティック モデルをエクスポートします。エクスポートしても、それが統制されたグラウンディング ソースになるわけではありません。
- * B. WS1 の共有 ワークスペースを共有することでアクセスは許可されますが、意味モデル自体がグラウンディングのための信頼できるデータソースとして確立されるわけではありません。
- * C. Dataverse テーブルへのデータ投入 データは既に存在し、セマンティック レイヤーを通じてモデル化されているため、この要件では別のテーブルを作成する必要はありません。

質問: 5

事例研究1 - ファブリカム社

背景

ファブリカム社は、グローバルな消費財企業であり、インフラ全体をマイクロソフトのクラウドに移行するデジタル変革イニシアチブを進めています。このクラウド移行の重要な要素として、同社は Microsoft Dynamics 365 Salesを導入し、企業間取引 (B2B) 営業チームが現在使用しているオンプレミスの独自技術から脱却します。

クラウド移行の一環として、FabrikamはビジネスソリューションにおいてAIファーストのアプローチを採用し、可能な限りAIソリューションを導入して業務効率化を図ります。

問題提起

Fabrikamのインフラは現在、様々なオンプレミスシステムに依存しており、営業担当者は顧客とのやり取りの際に、物理キーボードを備えた社内コンピュータを使用して業務情報にアクセスする必要があります。これらのシステムはキーボード入力に依存しているため、携帯電話はこれらの用途には使用できません。結果として、営業担当者は顧客対応に集中する代わりに、複数の異なるシステムやファイルサーバーでデータを検索するためにキーボード操作に多くの時間を費やしています。これは顧客体験に悪影響を与えています。

Fabrikamの関係者は、ユーザーがAIの導入に躊躇するのではないかと懸念しています。AIイニシアチブが採用されなければ、コスト削減効果は決して実現しません。さらに、今後のAIイニシアチブへの資金提供は、AIの導入率が月ごとに増加していることを示すかどうかにかかっています。営業チーム向けのAIエージェント導入はFabrikamにとって初めての試みとなるため、エージェントの迅速な導入が最優先事項です。

計画されている取り組み

一般的な

Fabrikamの経営陣は、効率性、顧客エンゲージメント、そして責任あるAI導入を促進するため、AIを活用したプロジェクトを優先的に進めています。現在のアプリケーションインフラはオンプレミス環境にあり、これらの技術導入をサポートするためにはクラウドへの移行が必要です。

インフラストラクチャ移行

Fabrikamは、現在のオンプレミス型インフラストラクチャから完全にクラウドベースのトポロジーへの移行を計画しています。これには、ユーザー認証、セキュリティフレームワーク、そして何よりもエンドユーザーによるサービスの導入が含まれます。

さまざまなシステムからのすべてのデータは、単一のデータソース、つまり共通のデータモデルに統合されます。このデータモデルは、Microsoft Dataverse環境を営業チームにとっての唯一の信頼できる情報源（SOT）として使用します。

販売サイクルの実現

ファブリカム社は、会社の目標達成のため、販売サイクルを強化するために以下の戦略を実施する予定です。

- ローコード開発を使用して、データバースをその中核コンポーネントとする。
- 営業マネージャーが未回答の通信にアクセスできることを確認してください

見込み客を評価し、必要に応じて介入する。

- 以前の独自ソフトウェアを Dynamics 365 Sales に置き換えて

販売サイクルと顧客とのやり取りを追跡する。

- 営業担当者に Dynamics 365 Sales を使用して追跡させる

オープンな機会に関するやり取りを行い、フォローアップの連絡を送信します。

見込み客へ。

- 営業担当者にハンズフリーヘッドセットを使用して顧客とやり取りさせる

AIエージェントは、内部ポリシーや顧客に関する質問がある場合に

データ。

要件

インフラストラクチャ移行

Fabrikamは、以下のインフラストラクチャ移行要件を特定しました。

- 今後のすべてのインフラストラクチャワークロードにはAzureを使用する必要があります。
- 会社は、マイクロソフトが推奨する方法論に従わなければならない。

インフラストラクチャのクラウドへの移行。

- 作成されたAIエージェントはすべて、投資収益率（ROI）を確保する必要がある。

そのソリューションが会社のコスト削減につながるよう計算されている。

販売サイクルの実現

Fabrikamは、販売サイクルの実現に関して以下の要件を特定しました。

- 最終的なAIエージェントは、Microsoftの推奨事項に従う必要があります。

対話型のユーザーエクスペリエンス。

- AIエージェントが

準備したソリューションを実現するために、マイクロソフトの導入推奨事項に従います。

- 最初に作成された AI エージェントの詳細なテレメトリをログに記録する必要があります。

初期AIエージェントのトラブルシューティングと最適化を支援します

採用プロセス。

- 予期せぬAIエージェントの行動は、ライブ配信へのエスカレーションで終了しなければならない

担当者。たとえば、営業担当者は
2回失敗した後もエージェントが質問に答えられない場合、担当者が対応します。
試み。

- 現在のプロセスから切り替えた場合の投資収益率 (ROI)

今後のプロセスには、関係者の承認が必要となる。

- 営業チームは、Dynamics 365 Sales を使用して、
見込み客を現在よりも迅速かつ効率的に把握する。

- 営業マネージャーは、AIエージェントの導入状況を主要顧客に報告する必要があります
ファブリカムのステークホルダーに対し、毎月情報を提供する。

AIエージェントを介して共有されるユーザーIDや名前などの機密情報は、将来の監査のために追跡する必要があります。

将来のAIエージェント開発のための資金調達を支援するツールとして、どのツールを推奨しますか？

A. Microsoft Foundryにおける評価

B. Azureコスト最適化ワークブック

C. Azure Operator Insights

D. Microsoft Copilot Studioのアナリティクスタブ

E. 直接選好最適化 (DPO)

正解: ([正解を表示します](#))

シナリオ

要件

作成されたAIエージェントはすべて、その投資対効果 (ROI) を計算し、ソリューションが企業のコスト削減につながることを確認する必要がある。

--

Microsoft AIへの移行において、AIエージェントの投資対効果 (ROI) を算出することは、コストを正当化し、将来の資金調達を確保するために不可欠です。Microsoft Copilot Studioの分析タブを使用すると、これらの財務指標とパフォーマンス指標を直接追跡できます。

Copilot Studio Analyticsを使用したROIの計算

「分析」タブには、エージェントの効果を定量化できる専用の「節約額 (ROI)」タイルが用意されています。

節約パラメータの定義 : エージェントの実行が成功するごとに、節約できる推定時間 (秒分、または時間) と節約できる金額を入力できます。

リアルタイム追跡 : 解決済みの会話の成功回数に基づいて、選択した期間の合計節約額が自動的に計算されます。

遡及適用 : 節約額の見積もりを更新すると、システムはこれらの変更を過去の実行結果にも適用し、正確な履歴ビューを提供できます。

詳細な分析 : コスト削減は、エージェントの実行全体レベル、または実行内で使用される特定のツールごとに定義できます。

参照 :

<https://learn.microsoft.com/en-us/training/modules/forecast-agent-return-investment/>

質問: 6

ホットスポットに関する質問

ある企業は、Azure OpenAIのリソースを利用して応答を生成するエージェントを配備している。これらのエージェントは、米国とヨーロッパの両方に配備されている。

以下の要件を満たすガバナンスソリューションを推奨する必要があります。

- リソースのデプロイ先を承認済みのAzureのみに限定する

地域

- リソースの継続的なコンプライアンス検証を提供します

各要件に対する推奨事項には何を含めるべきでしょうか？回答するには、回答欄で適切な選択肢を選んでください。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Answer Area

Enforces the deployment of the resources to only approved regions:

	▼
Azure Monitor	
Azure Policy	
Microsoft Defender for Cloud	
Microsoft Purview	
Microsoft Sentinel	

Provides continuous compliance verification of the resources:

	▼
	Azure Monitor
	Azure Policy
Microsoft Defender for Cloud	
Microsoft Purview	
Microsoft Sentinel	

正解:

Answer Area

Enforces the deployment of the resources to only approved regions:

▼

- Azure Monitor
- Azure Policy
- Microsoft Defender for Cloud
- Microsoft Purview
- Microsoft Sentinel

Provides continuous compliance verification of the resources:

▼

- Azure Monitor
- Azure Policy
- Microsoft Defender for Cloud
- Microsoft Purview
- Microsoft Sentinel

Explanation:

ボックス1 :Azureポリシー

リソースのデプロイを承認済みの Azure リージョンのみに強制するには、Azure OpenAI リソースのデプロイを承認済みの Azure リージョン (たとえば、ヨーロッパと米国の特定のリージョン) のみに強制するには、Azure Policy の「許可された場所」ポリシー定義を使用する必要があります。

この制御を実装する方法の内訳は以下のとおりです。

主要ツール: Azure Policy

Azure Policyを使用すると、リソースを作成できる場所を制限するルールを定義できます。

ポリシールール: 許可された場所のポリシー定義を使用します。

実装: このポリシーをサブスクリプションまたはリソースグループレベルで割り当てることで、開発者が許可されたリージョン (例: 米国東部西ヨーロッパ) のみを使用できるように制限できます。

影響: ユーザーが承認されていないリージョンに Azure OpenAI リソースをデプロイしようとする、デプロイはブロックされます。

ボックス2 :マイクロソフトの視点

リソースの継続的なコンプライアンス検証を提供します

ヨーロッパと米国における Azure OpenAI リソースの継続的なコンプライアンス検証を行うには、Microsoft Purview Compliance Manager と Azure Policy を使用する必要があります。

Microsoft Purview Compliance Manager: このツールは、リスクベースのコンプライアンススコアを提供し、EU AI法、GDPR、各種米国規格などのグローバル規制に対する継続的なモニタリングを行います。生成型AIアプリケーションのコントロールを評価および実装するのに役立つ、具体的な規制テンプレートも用意されています。

Azure Policy: これを使用して、組織の標準を適用し、大規模なコンプライアンス評価を行うことができます。Azure AI サービス用の組み込みポリシー定義を適用することで、準拠していないリソース構成を自動的に監査または拒否できます。たとえば、リソースを特定のリージョン (EU または米国のみ) に制限したり、プライベート ネットワーク アクセスを有効にしたりできます。

参照:

<https://learn.microsoft.com/en-us/azure/ai-foundry/foundry-models/concepts/deployment-types>

<https://learn.microsoft.com/en-us/purview/ai-agent-365>

質問: 7

ある企業はMicrosoft Copilot Studioエージェントを導入している。

同社は、開発、テスト、本番環境全体にカスタムコネクタを展開する計画だ。

一貫性を確保し、本番環境での直接編集を防止するために、アプリケーションライフサイクル管理 (ALM) プロセスを設計する必要があります。設計に含めるべき2つのアクションはどれですか？それぞれの正解は、解決策の一部を示しています。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

- A. データのエクスポートとインポートを使用して、エージェントを環境間で移動します。
- B. マネージドソリューションを本番環境にデプロイします。
- C. 各環境でエージェントを手動で再構築します。
- D. 管理されていないソリューションを本番環境にデプロイします。
- E. ソリューションにエージェントとコネクタを含める。

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 8

ある企業は、Azure OpenAIのリソースを利用して応答を生成するMicrosoft Foundryエージェントを導入している。これらのエージェントは、米国とヨーロッパの両方に展開されている。

会社の規定では、エージェントとその関連データは、データ所在地およびデータ移動に関する規制を遵守しなければならないと定められている。

エージェント向けのガバナンスソリューションを提案する必要があります。

推奨状には何を含めるべきでしょうか？

- A. Microsoft Defender for Cloud
- B. Azureポリシー
- C. Azure Monitor
- D. マイクロソフトの視点

正解: D ([コメントを發表する](#))

このシナリオでは、Microsoft Foundry エージェントと Azure OpenAI リソースは、Responses API を使用して応答を生成します。これらのエージェントが米国と欧州におけるデータ所在地および移動に関する規制を遵守するようにするには、Microsoft Purview を含めて、以下のガバナンスおよびセキュリティ制御を提供する必要があります。

統合されたデータ検出と分類 : Purviewの検出REST APIを使用すると、オーケストレーターエージェントは、組織のデータ環境全体にわたって、関連するデータ資産 (FabricやDatabricksなど) を識別できます。

機密ラベルの適用 : AIが生成する応答が既存のアクセス制御を遵守するように、クエリ時にドキュメンタラベルのメタデータをチェックします。これにより、機密データの過剰な共有を防ぎ、ユーザーがアクセスできるコンテンツを許可されたものに制限します。

データ損失防止 (DLP) : Purview DLPポリシーを統合することで、組織は機密データがAIプロンプトや応答で使用されている場合に、リアルタイムで監視、ブロック、または警告を発することができます。

データ所在地のコンプライアンス : 厳格な欧州の所在地要件 (GDPRなど) を満たすためには、Azure OpenAIリソースをデータゾーン (DZ) SKU (スウェーデン中央やドイツ西中央など) を使用してデプロイする必要があります。これにより、データの保存と処理の両方が指定された地域内に留まることが契約上保証されます。

組み込みガバナンス : 管理者は、サブスクリプションレベルでMicrosoft AI Foundryとのネイティブ統合を有効にできます。これにより、追加の開発者コードを必要とせずに、プロンプトとレスポンスのデータが監査とコンプライアンスのためにPurviewに自動的に送信されます。

参照 :

<https://www.georgeollis.com/consuming-a-microsoft-foundry-agent-programmatically>

質問: 9

ある企業は、カスタムコネクタを使用してエンタープライズAPIと連携するMicrosoft Copilot Studioエージェントを導入している。コネクタが開発、テスト、本番環境全体に一貫して展開され、ガバナンスとトレーサビリティの要件を満たすように、アプリケーションライフサイクル管理 (ALM) プロセスを推奨する必要があります。何をすすめますか？

- A. APIをAzure Functionsとしてデプロイします。
- B. コネクタをソリューションコンポーネントとして管理し、ALMパイプラインを使用してコンポーネントをデプロイします。
- C. コネクタ定義を環境変数に保持します。
- D. 環境間のコネクタを管理対象外ソリューションとしてエクスポートおよびインポートします。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Agentic AI Business Solutionsによる包括的かつ詳細な解説トピック：

正解はBです。コネクタをソリューションコンポーネントとして管理し、ALMパイプラインを使用してコンポーネントをデプロイします。これは最適な推奨事項です。なぜなら、この要件は開発、テスト、本番環境におけるアプリケーションライフサイクル管理 (ALM)に関するものであり、同時にガバナンスとトレーサビリティの要件も満たしているからです。

Microsoft Copilot Studioおよびより広範なPower Platformエコシステムにおいて、適切なエンタープライズパターンは、カスタムコネクタなどの成果物をソリューションコンポーネントとして扱い、構造化されたALMパイプラインを通じて環境間で移動させることです。これにより、組織は制御可能で再現性があり、監査可能なデプロイメントを実現できます。

Bが正しい理由

カスタムコネクタは、アプリケーションソリューション環境の一部です。ソリューションコンポーネントとしてパッケージ化すると、以下のようになります。

- * バージョン管理
- * 管理された方法で様々な環境において促進される
- * リリース前に検証済み
- * 正式な展開プロセスの一環として追跡されます
- * ガバナンス基準に準拠

ALMパイプラインを使用することで、エンタープライズ展開に必要な運用規律が強化されます。これにより、以下の点がサポートされます。

- * 環境間の一貫性
- * 追跡可能なリリース
- * 承認ワークフロー
- * 手作業によるミスの削減
- * 繰り返し可能なデプロイメント
- * ロールバックとリリース管理の改善

エージェント型AIビジネスソリューションの観点からすると、これは重要な点です。なぜなら、コネクタは多くの場合、Copilotエージェントとエンタープライズシステム間のアクションレイヤーを提供するからです。コネクタの展開に一貫性がない場合、エージェントは開発環境、テスト環境、本番環境で異なる動作をする可能性があり、ビジネスリスクが生じます。

ソリューションとALMパイプラインを通じてこれらを管理することで、統合レイヤーがAIビジネスアプリケーションの他の部分と同様に統制されることが保証されます。

他の選択肢が間違っている理由

A) APIをAzure Functionsとしてデプロイする

これはバックエンドロジックのアーキテクチャとしては妥当な選択肢かもしれませんが、カスタムコネクタのALM要件には対応していません。問題はAPIロジックのホスト方法ではなく、ガバナンスとトレーサビリティを確保しながら、環境間でコネクタを一貫してデプロイする方法です。

C) コネクタ定義を環境変数に保持する

環境変数は、エンドポイント、キー、環境固有の設定などの構成可能な値を保存するのに便利ですが、環境変数だけではコネクタの完全なALMプロセスを提供することはできません。環境変数は構成管理をサポートするものであり、ライフサイクルガバナンスやデプロイメントのトレーサビリティを単独で実現するものではありません。

D) 環境間のコネクタを管理対象外ソリューションとしてエクスポートおよびインポートします。管理対象外ソリューションは、開発、テスト、および本番環境全体にわたる統制されたエンタープライズ ALM のベスト プラクティスではありません。

これらは、管理されたデプロイメントパターンやパイプライン主導のALMと比較して、制御が難しく、規律あるリリース促進には適しておらず、トレーサビリティも劣ります。

専門家の推論

質問に以下の用語と一緒に含まれている場合：

- * コパイロットスタジオ
- * カスタムコネクタ
- * 開発、テスト、本番
- * ガバナンス
- * トレーサビリティ
- * ALM

マイクロソフト寄りの最も有力な回答は、ほぼ常に次の通りです。

- * 成果物をソリューションコンポーネントとして扱う
- * ALMパイプラインを通じてデプロイする

これは、Power PlatformおよびCopilot関連の展開を管理するための、標準的な企業向けパターンです。

質問: 10

インフラ移行にはどのフレームワークを使用すべきでしょうか？

- A. Microsoft Azure 向けクラウド導入フレームワーク
- B. デザインによる成功
- C. Microsoft Power Platform センター オブ エクセレンス (CoE)
- D. Microsoft Power Platform プロジェクトセットアップウィザード

正解: ([正解を表示します](#))

Agentic AI Business Solutionsによる包括的かつ詳細な解説トピック：

正解はAです。Microsoft Cloud Adoption Framework for Azure。

このシナリオでは、Fabrikamは完全なオンプレミス環境から完全にクラウドベースのトポロジーに移行しており、要件には明確に次のことが記載されています。

* 今後のすべてのインフラストラクチャワークロードにはAzureを使用する必要があります

* 会社は、クラウドへのインフラストラクチャ移行に関して、マイクロソフトが推奨する方法論に従わなければなりません。この文言は、Azure の Microsoft Cloud Adoption Framework を直接指しています。

クラウド導入フレームワークは、企業のクラウド移行の計画と実行に関するマイクロソフトの主要なガイダンスです。これは単なる技術的な移行チェックリストではなく、組織がワークロードを構造的かつ統制された方法でAzureに移行できるよう支援する包括的な戦略的フレームワークです。このフレームワークは、次のような主要な領域を網羅しています。

- * 移行戦略
- * 準備状況評価
- * ガバナンス
- * 身元確認とセキュリティ計画
- * 着陸地点
- * 業務管理

組織の整合性

- * 養子縁組計画

AIを活用したビジネスソリューションの観点から見ると、これは非常に重要です。なぜなら、AIソリューションは基盤となるインフラストラクチャが適切に近代化されて初めて成功するからです。Fabrikamの目標には、クラウド移行、Dataverseの統合、Dynamics 365 Salesの導入、そしてAIファーストのビジネスオペレーションが含まれます。これらはすべて、強固なAzureベースのクラウド基盤に依存しています。クラウド導入フレームワークは、この変革が拡張性、セキュリティ、そしてビジネス成果との整合性を確保した形で実行されることを保証するのに役立ちます。

他の選択肢が間違っている理由：

B) 設計による成功

このフレームワークは、主にビジネスアプリケーションの設計と実装において、導入率、使いやすさ、ソリューション品質を向上させるために使用されます。対話型エクスペリエンス、アプリケーションの展開、Dynamics 365やCopilot関連の実装など、ユーザーがソリューションから価値を得られるようにすることに非常に有効です。ただし、Azureへのインフラストラクチャ移行のための主要なフレームワークではありません。

C) マイクロソフト Power Platform センター オブ エクセレンス (CoE)

CoE センター オブ エクセレンス)は、組織全体でPower Platformの利用に関するガバナンス、監視、ベストプラクティス、および有効化を確立するために使用されます。Power Platform環境全体で、メーカー、アプリ、フロー、および導入状況の管理に役立ちます。導入開始後には役立ちますが、エンタープライズインフラストラクチャをAzureに移行するためのフレームワークではありません。

D). Microsoft Power Platform プロジェクトセットアップウィザード

これは、Power Platform の実装におけるプロジェクトのセットアップと構成を支援するものであり、組織のインフラストラクチャをオンプレミス システムから Azure に移行するためのエンタープライズ規模の移行ガイダンスを提供するものではありません。

専門家の推論：

インフラストラクチャ移行、Azure、およびマイクロソフト推奨の方法論に関する質問があった場合、ほぼ間違いなくMicrosoft Cloud Adoption Framework for Azureが最適です。マイクロソフトのソリューションアーキテクチャやAIビジネス変革のシナリオにおいて、このフレームワークはクラウド移行の計画と実行における標準的なソリューションとなっています。

トピック1、ファブリカム社

背景 - Fabrikam, Inc. は、グローバルな消費財企業であり、インフラストラクチャ全体を Microsoft クラウドに移行するデジタル変革イニシアチブを進めています。このクラウド移行の重要な要素として、同社は Microsoft Dynamics 365 Sales を導入し、企業間取引 (B2B) 営業チームが現在使用しているオンプレミスの独自技術から移行します。クラウド移行の一環として、Fabrikam はビジネス ソリューションに AI ファーストのアプローチを採用し、可能な限り AI ソリューションを導入して業務を効率化します。問題点 - Fabrikam のインフラストラクチャは現在、さまざまなオンプレミス システムに依存しており、営業担当者は顧客とのやり取り中にビジネス情報にアクセスするために、物理キーボードを備えた企業用コンピュータを使用する必要があります。これらのシステムはキーボード入力に依存しているため、携帯電話をこれらの目的で使用することはできません。その結果、営業担当者は顧客に集中するのではなく、複数の異なるシステムやファイル サーバーでデータを検索するためにキーボードを使用するのに多くの時間を費やしています。これは顧客体験に影響を与えています。Fabrikam の関係者は、ユーザーが AI の導入に躊躇するのではないかと懸念しています。AIイニシアチブが採用されなければ、コスト削減効果は決して実現しないでしょう。さらに、今後のAIイニシアチブへの資金提供は、AI導入率が月ごとに増加していることを示すかどうかにかかっています。

営業チーム向けの AI エージェントの取り組みは Fabrikam にとって初めてとなるため、エージェントの迅速な導入が最優先事項です。計画された取り組み - 一般 - Fabrikam の経営陣は、効率性、顧客エンゲージメント、および責任ある AI 導入を改善するために、AI 主導のプロジェクトを優先しています。現在のアプリケーション インフラストラクチャはオンプレミスであり、これらのテクノロジーの導入をサポートするためにクラウドに移行する必要があります。インフラストラクチャの移行 - Fabrikam は、現在のオンプレミス インフラストラクチャから完全にクラウド ベースのトポロジに移行することを計画しています。これには、ユーザー認証、セキュリティ フレームワーク、および主にエンド ユーザーによるサービスの導入が含まれます。さまざまなシステムからのすべてのデータは、単一のデータ ソース、つまり営業チームの唯一の真実の情報源 (SSOT) として Microsoft Dataverse 環境を使用する共通データ モデルに統合されます。営業サイクルの有効化 - 会社の目標を達成するために、Fabrikam は営業サイクルを強化するために次の戦略を実行する予定です。ロー コード開発を使用して、Dataverse をコア コンポーネントとする単一の AI エージェントを作成します。営業マネージャーが見込み客からの未回答の問い合わせにアクセスし、必要に応じて対応できるようにします。以前の独自ソフトウェアをDynamics 365 Salesに置き換えて、販売サイクルと顧客とのやり取りを追跡します。営業担当者にDynamicsを使用させます。

365 Sales を使用して、オープンな商談のやり取りを追跡し、見込み客にフォローアップの連絡を送信します。営業担当者は、社内ポリシーや顧客データに関する質問がある場合、ハンズフリーのヘッドセットを使用して AI エージェントとやり取りします。要件 - インフラストラクチャ移行 - Fabrikam は、次のインフラストラクチャ移行要件を特定しました。Azure は、将来のすべてのインフラストラクチャワークロードに使用する必要があります。

同社は、クラウドへのインフラストラクチャ移行に関して、マイクロソフトが推奨する手法に従わなければならない。

作成されたすべての AI エージェントは、ソリューションが会社のコスト削減につながることを確認するために、投資収益率 (ROI) を計算する必要があります。セールス サイクルの有効化 - Fabrikam は、セールス サイクルの有効化に関して次の要件を特定しました。最終的な AI エージェントは、会話型ユーザー エクスペリエンスに関する Microsoft の推奨事項に従う必要があります。AI エージェントが準拠ソリューションに関する Microsoft の展開推奨事項に従っていることを確認するために、指定されたチェック リストを確認する必要があります。最初の AI エージェントの導入プロセス中にエージェントのトラブルシューティングと最適化を支援するために、最初に作成された AI エージェントの詳細なテレメトリをログに記録する必要があります。予期しない AI エージェントの動作は、ライブ担当者へのエスカレーションで終了する必要があります。たとえば、エージェントが 2 回失敗した後も質問に答えられない場合は、営業担当者に転送する必要があります。現在のプロセスから将来のプロセスに切り替える投資収益率 (ROI) は、利害関係者の承認に必要です。営業チームは、Dynamics 365 Sales を使用して、現在よりも迅速かつ効率的に見込み客と連絡を取る必要があります。営業マネージャーは、AI エージェントの導入について、Fabrikam の主要な利害関係者に毎月報告する必要があります。AI エージェントを介して共有されるユーザー ID や氏名などの機密情報は、将来の監査のために追跡する必要があります。

質問: 11

ある企業が Microsoft Foundry エージェントを導入する計画を立てている。

エージェントがデプロイされる前に、ベースラインの精度指標に基づいて評価されるように、アプリケーションライフサイクル管理 (ALM) プロセスを推奨する必要があります。どのようなプロセスを推奨すべきでしょうか？

- A. Foundry Control Plane で評価とドリフト監視による可観測性を使用する。
- B. 新しいエージェントバージョンをそれぞれ直接本番環境にデプロイします。
- C. Application Insights を有効にして Azure Monitor を使用します。
- D. 新しいエージェントバージョン用に GitHub Actions を設定します。

正解: ([正解を表示します](#))

Microsoft Foundry エージェントをデプロイする場合、プラットフォームには以下の機能が組み込まれています。

- * 評価パイプライン
- * ベースライン精度チェック
- * ドリフト監視
- * 可観測性ダッシュボード

これらの機能により、デプロイ前にエージェントをベースラインメトリクスに対して検証することが可能になり、これはまさに質問で求められていることです。

これは、以下の問題に直接対処できる唯一の選択肢です。

- * ALM
- * 事前評価
- * 精度検証
- * 自動品質ゲート

質問: 12

複数の事業部門で使われる共有プロンプトライブラリを設計する必要があります。ソリューションは以下の要件を満たす必要があります。

再利用可能なフォーマットを使用して、一貫性のある AI 応答を確保する。

ガバナンスとバージョン管理をサポートする。

管理業務の手間を最小限に抑える。

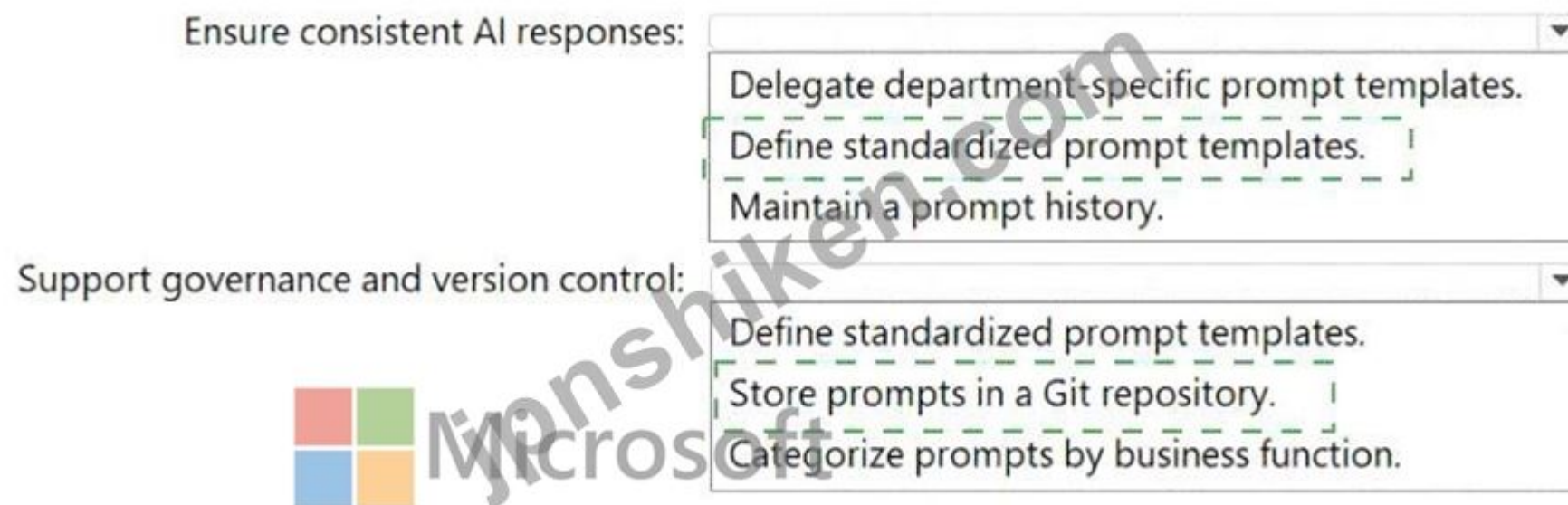
継続的なコストを最小限に抑える。

それぞれの要件に対して、どのような推奨事項を提示すべきでしょうか？回答欄で適切な選択肢を選んでください。

注：正解ごとに 1 ポイントが加算されます。



正解:



Explanation:

一貫性のあるAI応答を保証する # 標準化されたプロンプトテンプレートを定義する。ガバナンスとバージョン管理をサポートする # プロンプトをGitリポジトリに保存する 要件では、共有プロンプトライブラリは、再利用可能な形式で一貫性のあるAI応答を保証する必要があるとされています。

それを実現する最善の方法は、標準化されたプロンプトテンプレートを作成することです。

標準化されたテンプレートは、複数の事業部門が同じ構造を使用するのに役立ちます。

- * システム命令
- * 回答スタイル
- * 出力フォーマット
- * 安全に関するガイダンス
- * ビジネス用語
- * エスカレーション行動

これは、AIを活用したビジネスソリューションにおいて重要です。なぜなら、急激な変化はしばしば一貫性のない結果につながるからです。共通のテンプレートを用いることで、再現性が高まり、部門間のばらつきを軽減できます。

企業向けAI設計の観点から見ると、標準化されたプロンプトテンプレートは以下の点を改善します。

- * 回答の一貫性
- * 品質管理

- * 再利用性
- * オンボーディングのスピード
- * コンプライアンスとの整合性

また、チームが新しいプロンプト構造を一から考案する必要がないため、管理上の労力も最小限に抑えられます。

「プロンプトをGitリポジトリに保存する」が正しい理由

要件では、ソリューションは労力とコストを最小限に抑えつつ、ガバナンスとバージョン管理をサポートする必要があるとされています。

Gitリポジトリが最も適切な回答である理由は、以下の点を提供するからです。

- * バージョン履歴
- * 変更追跡
- * ロールバック機能
- * コラボレーションサポート
- * 承認ワークフロー
- * 監査可能性

これはガバナンスを直接的に支援する。組織は以下のことを知ることができる。

- * プロンプトを変更した人
- * 何が変わったのか
- * 変更されたとき
- * 変更の理由

これは、特にプロンプトがビジネス上の意思決定、顧客とのやり取り、コンプライアンス行動、または社内プロセスの自動化に影響を与える場合、企業のAI運用にとって非常に価値のあるものです。

Gitは、標準的な開発およびコンテンツ管理手法を採用しているため、迅速な資産管理のために別途高価なガバナンスプラットフォームを必要とせず、継続的なコストを最小限に抑えることができます。

他の選択肢が間違っている理由

部門別プロンプトテンプレートを委任する

これは一貫性を向上させるどころか、むしろ低下させる。各部署が独自のテンプレートを作成することで、断片化、スタイルのずれ、ガバナンス上の課題が生じる。

迅速な履歴を維持する

履歴を記録することは有用ですが、それだけで一貫性のある再利用可能なフォーマットが保証されるわけではありません。それは標準化の仕組みというよりは、記録保持活動に近いものです。

業務機能別にプロンプト进行分类する

分類は整理や発見性を高めるのに役立ちますが、それ自体ではバージョン管理やガバナンスを提供するものではありません。

ガバナンス/バージョン管理のための標準化されたプロンプトテンプレートを定義する

標準化は一貫性を向上させますが、バージョン管理には特に変更を追跡・管理するためのシステムが必要です。そのため、ガバナンス要件を満たすにはGitがより適しています。

専門家の推論

共有エンタープライズプロンプトライブラリは、通常、次のパターンに従うべきです。

- * 一貫性と再利用性 # 標準テンプレート
- * ガバナンスとバージョン管理 # Gitベースのリポジトリ
- * 低コストかつ管理負担が少ない # 既存のツールと集中管理機能を再利用

質問: 13

従業員の生産性を最適化するために、Microsoft 365 Copilot ソリューションを設計する必要があります。このソリューションは、以下の要件を満たす必要があります。

従業員が、自然言語ベースのプロンプトアクションを使用して、Microsoft SharePoint Online サイトの一部および Teams に保存されているコンテンツを照会できるようにします。

Microsoft 365 Copilotにおいて、従業員が状況に応じた適切な回答を受け取れるようにしてください。

デザインには何を含めるべきでしょうか？

- A. Microsoft Power Automate デスクトップ フローを作成し、SharePoint コンテンツを読み取り、その応答を Teams に投稿します。
- B. SharePointの設定を変更します。
- C. SharePoint コンテンツをクロールするカスタム REST API を作成します。
- D. Microsoft Graphへのアクセスを設定します。

正解: ([正解を表示します](#))

Agentic AI Business Solutionsによる包括的かつ詳細な解説トピック：

正解はDです。Microsoft Graphへのアクセスを構成します。

Microsoft 365 Copilot は、Microsoft Graph を通じて Microsoft 365 データに基づいて応答を生成します。従業員が自然言語プロンプトを使用して SharePoint Online サイトおよび Teams のサブセットからコンテンツを照会する必要がある場合、ソリューションは、Graph に接続されたアクセス許可とデータアクセスパターンを通じて、Copilot が適切な Microsoft 365 コンテンツコンテキストにアクセスして使用できることを保証する必要があります。

Dが正解である理由

Microsoft Graph は、Microsoft 365 Copilot の中核となるデータおよびコンテキスト レイヤーです。Copilot を次のような組織コンテンツに接続します。

- * SharePoint サイト
- * Teamsのメッセージとファイル
- * OneDriveコンテンツ
- * Outlookデータ
- * カレンダーとコラボレーションのコンテキスト

Microsoft 365 Copilot では状況に応じた適切な応答を提供する必要があるため、設計はプラットフォームのネイティブな基盤メカニズムに依存せざるを得ません。そのメカニズムとは、Microsoft へのグラフベースのアクセスです。

365日分のコンテンツ。

AIビジネスソリューションの観点から見ると、これは適切な設計です。なぜなら、以下の点が保証されるからです。

- * 自然言語によるプロンプトで関連する組織知識を取得できる
- * 回答は、承認された企業コンテンツに基づいています
- * アクセス権限はMicrosoft 365のアクセス許可に準拠しています
- * 従業員はアクセス権限のあるコンテンツのみを閲覧できます

これは、SharePointサイトのごく一部のみを含める場合に特に重要です。関連性とセキュリティモデルは、Microsoft 365コンテンツグラフとそのアクセス許可を考慮したアクセス動作に依存します。

他の選択肢が間違っている理由

A) Microsoft Power Automate デスクトップ フローを作成して SharePoint コンテンツを読み取り、その応答を Teams に投稿する。これは、Microsoft 365 Copilot がエンタープライズ コンテンツの基盤となるように設計されるべき方法ではありません。これは過度に手動であり、間接的であり、Copilot 応答のネイティブなコンテキスト基盤を提供しません。

B) SharePoint の設定を変更します。

SharePoint の設定は、サイトのアクセス許可やコンテンツの可用性に影響を与える可能性がありますが、それ自体では Microsoft 365 Copilot の SharePoint および Teams 全体にわたる自然言語処理機能を有効にするものではありません。

C) SharePointコンテンツをクロールするカスタムREST APIを作成する

これにより、不要なカスタマイズの複雑さが増し、Microsoft 365 Copilotのネイティブアーキテクチャが回避されます。この要件は、並列クローラーを構築するのではなく、Microsoft Graphベースのアクセスによって満たすのが最適です。

専門家の推論

Microsoft 365 Copilot に関するご質問は、以下までお問い合わせください。

- * 要件が自然言語で Microsoft 365 コンテンツを照会することである場合
- * SharePointおよびTeamsから状況に応じた適切な応答を返す

* 主要な設計要素は通常、Microsoft Graphです

質問: 14

シナリオ :サイバーセキュリティのリーダーが、組織の人工知能 (AI) 統合戦略を見直している。AIの計り知れない可能性と、それに伴うリスクの両方を認識している。特に、マイクロソフトが推奨するAI時代における包括的なセキュリティ対策に関心を持っている。

マイクロソフトの「セキュリティのためのAIに対する二重アプローチ」によれば、AI主導の環境において強固なセキュリティ体制を構築するために、組織はどのような2つの主要な優先事項に同時に取り組む必要があるでしょうか？

- A. AIを活用してセキュリティ防御を強化し、AIシステム自体を保護する
- B. 生成型AIソリューションの構築とレガシーセキュリティツールの無効化
- C. SaaS導入の加速とモデルチューニングの最適化
- D. コンテンツ生成とAPI監視に注力

正解: A ([コメントを発表する](#))

セキュリティ対策の強化とAIシステム自体のセキュリティ確保にAIを活用することは、マイクロソフトが提唱する「二重アプローチ」に合致しています。第一の優先事項は、AIの機能（脅威検出、異常分析など）を活用して既存のセキュリティ対策を強化することです。第二の、そして同様に重要な優先事項は、AIシステム自体のセキュリティを確保し、不正なインジェクション、データ汚染、モデルの盗難から保護し、責任あるAI原則がAIの導入に適用されるようにすることです。

参照：
<https://techcommunity.microsoft.com/blog/microsoftdefendercloudblog/unlocking-business-value-microsofts-dual-approach-to-ai-for-security-and-securit/4466811>

質問: 15

ある企業は、Microsoft Copilot StudioとPower Platformを使用して構築したAIソリューションを保有している。このソリューションは、同社の営業、マーケティング、およびカスタマーサービスチームによって利用されている。

あなたは、ソリューションの効果を評価するために、AI投資対効果 (ROAI) 分析を実施しています。分析に含めるべき、測定可能なビジネス推進要因を特定する必要があります。どの2つのビジネス推進要因を特定すべきでしょうか？それぞれの正解が解決策の一部を示しています。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

- A. 平均事件解決時間の短縮
- B. 時価総額
- C. 経済市場の予測可能性
- D. 従業員の生産性向上
- E. ブランド認知度

正解: A,D ([コメントを発表する](#))

平均ケース解決時間の短縮は、AI投資 (ROAI) 分析において、特にMicrosoft Copilot StudioとPower Platformを地域の営業、マーケティング、カスタマーサービスチームに導入する場合に、大きな影響力を持つ測定可能なビジネス推進要因となります。

マイクロソフトと業界調査によると、この指標は運用コストの削減、エージェントの生産性向上、顧客満足度の向上に直接つながる。

従業員の生産性向上は、Microsoft Copilot StudioとPower Platformを活用したAI投資 (ROAI) 分析において、特に営業、マーケティング、カスタマーサービスチームにとって、主要かつ測定可能なビジネス推進要因となります。これらのツールを用いることで、組織は手作業の自動化、ワークフローの効率化、コンテンツ生成の強化を実現でき、結果として時間の節約と効率性の向上に直接つながります。

参照：
<https://www.stratosphenetworks.com/blog/tech-talks-reduce-resolution-times-by-40-with-ai-for-customer-service-agents>
<https://www.microsoft.com/en-in/microsoft-copilot/copilot-101/ai-for-business>

質問: 16

ホットスポットに関する質問

あなたは、Microsoft Dynamics 365の財務および運用アプリ向けにAI戦略を設計しています。生成型AIの一般知識に基づいてアプリ内ヘルプとガイダンスを提供するために、Microsoft Copilot Studioの使用を評価しています。

生成型ヘルプ・ガイダンスエージェントに含めるべき知識源を推奨する必要があります。ソリューションは、不正確な応答を生成するリスクを最小限に抑えるものでなければなりません。

何を推奨しますか？回答するには、回答欄で適切な選択肢を選んでください。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Answer Area

Custom knowledge sources:

Must be uploaded to the agent
Must be excluded from the agent
Are not supported

AI general knowledge:

Must be enabled for the agent
Must be disabled for the agent
Is not supported

正解:

Answer Area

Custom knowledge sources:

Must be uploaded to the agent
Must be excluded from the agent
Are not supported

AI general knowledge:

Must be enabled for the agent
Must be disabled for the agent
Is not supported

Explanation:

ボックス1 :エージェントにアップロードする必要があります

カスタム知識ソース

ボックス2 :エージェントで有効にする必要があります

AIに関する一般知識

Dynamics 365 Finance and Operationsのアプリ内ヘルプに生成型AIエージェントを実装し、不正確さを最小限に抑えるには、Microsoft Copilot Studioでエージェントを構成し、特定の知識ソースをアップロードして、一般的なAI知識を有効にする必要があります。

1. カスタム知識ソースをアップロードする

エージェントが組織固有の正確なガイダンスを提供するには、内部文書をエージェントに直接アップロードしてください。

2. 汎用AI知識を有効にする

エージェントが一般的な問い合わせに対して、自身の広範な生成型AI知識を使用できるようにするため：

Microsoft Copilot Studioを開き、財務および運用アプリにリンクされているDataverse環境を選択します。

「エージェント」に移動し、財務および運用アプリ用の「Copilot」という名前の特定のエージェントを開きます。

概要タブで、「知識」セクションを見つけ、AIが自身の一般的な知識を使用することを許可する」を「有効」に設定します。

この機能をD365 F&Oサイドカーで利用できるように、変更内容を公開します。

参照：

<https://arpideas.com/en/articles/knowledge-hub/building-smart-ai-agents-with-microsoft-copilot-studio>

有効的な**AB-100**問題集はJPNTTest.com提供され、**AB-100**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**AB-100**試験問題集を提供します。JPNTTest.com AB-100試験問題集はもう更新されました。ここで**AB-100**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/AB-100-mondaishu> **147**問、**30%ディスカウント**、特別な割引コード：**JPNshiken**」

質問: 17

ある企業は、Microsoft Copilot StudioとPower Platformを使用して構築したAIソリューションを保有している。このソリューションは、同社の営業、マーケティング、およびカスタマーサービスチームによって利用されている。

あなたは、ソリューションの効果を評価するために、AI投資対効果（ROAI）分析を実施しています。

分析に含めるべき、測定可能なビジネス推進要因を特定する必要があります。

どの2つのビジネス推進要因を特定すべきでしょうか？それぞれの正解が解決策の一部を示しています。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

A. 平均事件解決時間の短縮

B. 時価総額

C. 経済市場の予測可能性

D. 従業員の生産性向上

E. ブランド認知度

正解: ([正解を表示します](#))

Agentic AI Business Solutionsによる包括的かつ詳細な解説トピック：

正解はA. 平均ケース解決時間の短縮、D. 従業員の生産性の向上です。

この質問は、運用チームが使用するCopilot StudioとPower PlatformソリューションのROAI分析のための、測定可能なビジネス推進要因を求めています。

ROAIにとって、最も強力なビジネス推進要因は以下のとおりです。

* AIソリューションに直接起因するもの

- * 運用上測定可能
- * 事業成果に結びついている
- * チーム間で関連性がある

Aが正しい理由

平均ケース解決時間の短縮は、顧客サービスおよびサポートのワークフローにおける直接的な業務改善を反映するため、測定可能な強力な指標となる。

この指標は、以下の点を比較することで明確に定量化できます。

- * AI導入前のベースライン解像度時間
- * 展開後の解決時間

そのため、ROAIにとって理想的です。なぜなら、迅速な事件解決は多くの場合、次のような結果につながるからです。

- * サービスコストの削減
- * スループットの向上
- * より良い顧客体験
- * より効率的な人員配置

Dが正解である理由

従業員の生産性向上も、ROAI（投資対効果を推進する重要な要素の一つです。なぜなら、営業、マーケティング、カスタマーサービスにおけるAIソリューションは、手作業を削減し、従業員一人当たりの生産性を向上させることを目的として導入されることが多いからです。

これは、以下のような指標によって測定できます。

- * エージェントまたは従業員一人当たりの完了タスク数が多い
- * 手作業の負担が軽減される
- * スループットの向上
- * より速い応答サイクル
- * より価値の高い仕事に費やす時間が増える

AIビジネスソリューションの観点から見ると、生産性向上はROAI分析において最も一般的で有効な推進要因の一つである。

他の選択肢が間違っている理由

B) 時価総額

これは範囲が広すぎ、多くの外部要因に影響されるため、特定のAIビジネスソリューションの具体的な影響を評価するための、実用的で直接的なビジネス推進要因とは言えません。

C) 経済市場の予測可能性

これは、ソリューションによって直接生み出されるビジネス上の推進要因ではなく、組織の運用上のAI投資対効果（ROI）の計算からあまりにもかけ離れたものです。

E) ブランド認知度

ブランド認知度は戦略的に重要になり得るが、この種の社内業務ソリューションにおいては、解決時間や生産性ほど直接的な因果関係が明確ではなく、運用面での測定も難しい。

専門家の推論

ROAIに関する質問には、以下の指標を優先してください。

- * 運用中
- * 帰属する
- * 展開前と展開後に測定可能

その結果、以下のことが起こりました。

- * 平均ケース解決時間の短縮
- * 従業員の生産性向上

カスタムAIエージェントにはどのような設定が必要ですか？

- A. Azure OpenAI 推論モデル
- B. 生成オーケストレーション
- C. クラシックオーケストレーション
- D. AI支援評価者

正解: B ([コメントを发表する](#))

カスタムAIエージェントは、固定されたトリガーフレーズに頼るのではなく、クエリの目的の説明に基づいてトピックを選択する必要があります。まさにこのようなシナリオにおいて、生成型オーケストレーションは最適な構成となります。

Bが正解である理由：

- * エージェントは、ユーザーのリクエストの意味に基づいて、最適なトピック、ツール、またはアクションを選択できるようになります。
- * より会話的なやり取りをサポートします
- * これは、トピックの選択がトリガーフレーズに依存してはならないという要件に直接合致しています。他の選択肢が正しくない理由：
- * A. Azure OpenAI 推論モデルは、Copilot Studio のトピックルーティング動作ではなく、モデルの機能に関するものです。
- * C. 古典的なオーケストレーションは、あらかじめ定義されたトピックとトリガーフレーズに大きく依存する。
- * D. AI支援評価ツールは、評価/テスト用であり、実行時オーケストレーション用ではありません。

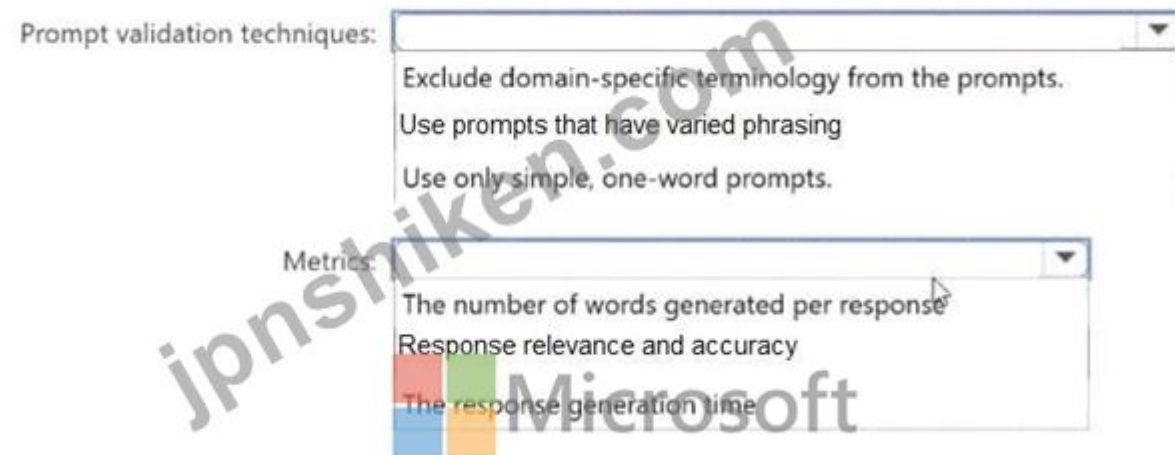
質問: 19

あなたはMicrosoft Copilot Studioエージェント向けのテストソリューションを設計しています。

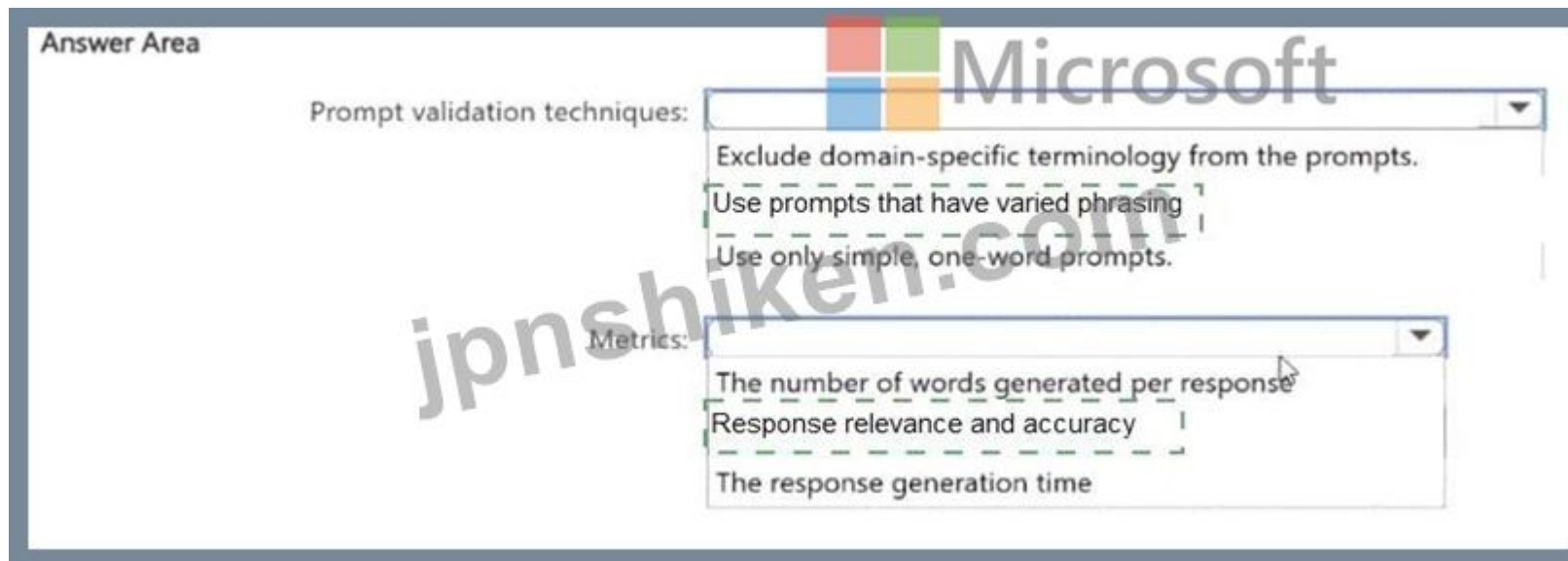
エージェントが正確で状況に応じた応答を生成することを保証するために、プロンプトエンジニアリングのベストプラクティスを検証する必要があります。ソリューションには、どのプロンプト検証手法と指標を含めるべきでしょうか？回答するには、回答欄で適切なオプションを選択してください。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Answer Area



正解:



Explanation:



Microsoft Copilot Studioエージェントのプロンプトエンジニアリングを検証する目的は、ユーザーが同じことを異なる方法で質問した場合でもエージェントが正しく応答することを確認し、応答が実際に有用かつ正確であるかどうかを測定することです。

プロンプト検証手法としては、「表現の異なるプロンプトを使用する」が正解です。これは、実際のユーザーは決まった形式で質問をしないため、基本的なベストプラクティスと言えます。ユーザーは、異なる言い回し、文構造、同義語、または詳細度を使用する可能性があります。表現の異なるプロンプトでテストすることで、プロンプトの設計が堅牢であるかどうか、またエージェントが自然言語の多様性に対して適切な応答を生成できるかどうかを確認できます。

この指標に関しては、「応答の関連性と正確性」が適切な選択肢です。応答が正確かつ文脈に即したものであることを保証することが要件であるため、これが最も適切な指標となります。これは、出力がユーザーのニーズに正しく、かつ適切な文脈で応えているかどうかを直接評価します。

他の選択肢が正しくない理由：

- * ビジネスAIソリューションにおいて、プロンプトからドメイン固有の用語を除外することは、ベストプラクティスではありません。多くの企業シナリオでは、ドメイン固有の用語は正確性を確保するために不可欠です。
- * 単純な単語だけのプロンプトを使用すると、実際の使用状況を反映せず、テストの網羅性が低下します。
- * 回答ごとに生成された単語数は、その回答が正しいか、文脈に合っているかを示すものではありません。
- * 応答生成時間はパフォーマンス指標であり、プロンプトの品質を検証するための最適な指標ではありません。

質問: 20

ある企業は、販売取引の生成を支援する複数のAIモデルを保有している。

モデルの各リリースは、本番環境に展開する前に、セキュリティおよびコンプライアンスチームによるレビューを受けなければなりません。セキュリティおよびコンプライアンスチームは、潜在的な脆弱性を適切に判断するために、以前のバージョンにアクセスする必要があります。

各デプロイメントが本番環境に与える影響を評価するためのソリューションを提案する必要があります。そのソリューションは、事業継続性を強化するものでなければなりません。

何をおすすめしますか？

- A. バージョン履歴を使用する中央モデルレジストリを作成します。
- B. 品質ゲートを使用して昇進プロセスを確立する。
- C. すべてのAIシステムコンポーネントにバージョン管理を実装する。
- D. サービスの中断を防ぐため、モデルの廃止スケジュールを追跡します。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Agentic AI Business Solutionsによる包括的かつ詳細な解説トピック：

正解はCです。すべてのAIシステムコンポーネントにバージョン管理を実装します。

この質問は、単にモデルの承認に関するものではありません。組織が以下のことを可能にする展開プロセスを構築することに関するものです。

- * リリース前にすべてのリリースをレビューする
- * 現在バージョンと以前のバージョンを比較する
- * 変更の影響を評価する

導入によってリスクが生じる場合、事業継続性を向上させる

そのため、AIシステムコンポーネント全体のバージョン管理が最も有効な解決策となる。

Cが正しい理由

この要件では、セキュリティおよびコンプライアンスチームが、各リリースによって生じた脆弱性を特定するために、以前のバージョンにアクセスできる必要があると規定されています。つまり、組織は、モデル自体だけでなく、より広範なAIソリューションについても、時間の経過とともに追跡、比較、そして必要に応じてロールバックできる必要があるということです。

実際の企業向けAI導入において、「AIシステムコンポーネント」には通常、以下が含まれます。

- * モデル
- * プロンプト
- * オーケストレーションロジック
- * 設定ファイル
- * ポリシー
- * コネクタ
- * 推論コード
- * 評価資産
- * デプロイメント定義

モデルのみをバージョン管理した場合、チームは周辺コンポーネントによってもたらされるリスクを見落とす可能性があります。例えば、次のようになります。

- * 急な変更は安全でない出力を生み出す可能性があります
- * ポリシー/設定の変更により、機密データが漏洩する可能性がある
- * オーケストレーションの更新により、トランザクションの動作が変わる可能性があります。

コネクタの変更はコンプライアンス境界に影響を与える可能性があります

だからこそ、AIシステム全体のバージョン管理が最善の解決策となるのです。これにより、セキュリティチームとコンプライアンスチームは、リリース間で何が変更されたかを完全に把握できます。

バージョン管理は以下をサポートするため、ビジネス継続性も向上させます。

- * 既知の正常なバージョンにロールバックする
- * 変更監査
- * リリース比較
- * トレーサビリティ
- * 不具合のあるデプロイメントからの制御された復旧

エージェント型AIビジネスソリューションの観点から見ると、これは最も堅牢なガバナンスパターンと言えます。なぜなら、AIの成果はモデル単体で決まることはほとんどなく、ソリューションスタック全体によって決まるからです。

他の選択肢が適切でない理由

A. バージョン履歴を使用する中央モデルレジストリを作成する

モデルレジストリは便利で、バージョン履歴も役立ちますが、この選択肢は範囲が狭すぎます。質問は、各デプロイメントの影響を評価し、ビジネス継続性を強化することについてです。エンタープライズAIシステムでは、影響はモデル成果物だけではなく、さまざまな要因によって引き起こされることがよくあります。モデルレジストリは、本番環境の動作に影響を与えるすべての周辺コンポーネントを必ずしも網羅するとは限りません。

B. 品質ゲートを使用して昇進プロセスを確立する

C. 品質ゲートは承認ワークフローにおいて有用ですが、システム全体にわたる過去のバージョンへの詳細なアクセスというニーズを単独で満たすものではありません。品質ゲートはプロモーションを制御しますが、すべてのAIシステムコンポーネントについて履歴追跡とロールバック機能を完全に提供するものではありません。

D. サービスの中断を防ぐため、モデルの退職スケジュールを追跡する

これはライフサイクル計画を支援するかもしれないが、リリースを比較し、以前のバージョンをレビューし、各展開によってもたらされるリスクを評価するという中核的な要件には対応していない。専門家の推論

この質問は、次の3つのアイデアを組み合わせたものです。

* セキュリティ/コンプライアンスレビュー

* 以前のバージョンへのアクセス

* 事業継続

それらが同時に現れる場合、最も強力な解決策は通常、単一の成果物だけでなく、ソリューション全体にわたるエンドツーエンドのトレーサビリティとロールバックを提供するものです。

そのため、AIシステムコンポーネントすべてに対してバージョン管理を行うことが最善の推奨事項となります。

したがって、正しい選択肢は次のとおりです。

質問: 21

ある企業は、顧客サポートのためにMicrosoft Copilot Studioエージェントを使用しています。あなたは以下のプロンプトを確認し、検証しています。

* お客様をできる限りサポートしてください」という指示を含むプロンプト

* ナレッジベースから製品情報を取得するのに役立つプロンプト。エージェントが一貫性のある正確な応答を提供するようにする必要があります。それぞれの設問に対して、何をすべきですか？回答するには、回答欄

で適切な選択肢を選んでください。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Answer Area

A prompt that has instructions to "help the customer as best you can":

Add filler words to make the prompt sound more natural and conversational.

Keep the prompt vague to enable model flexibility.

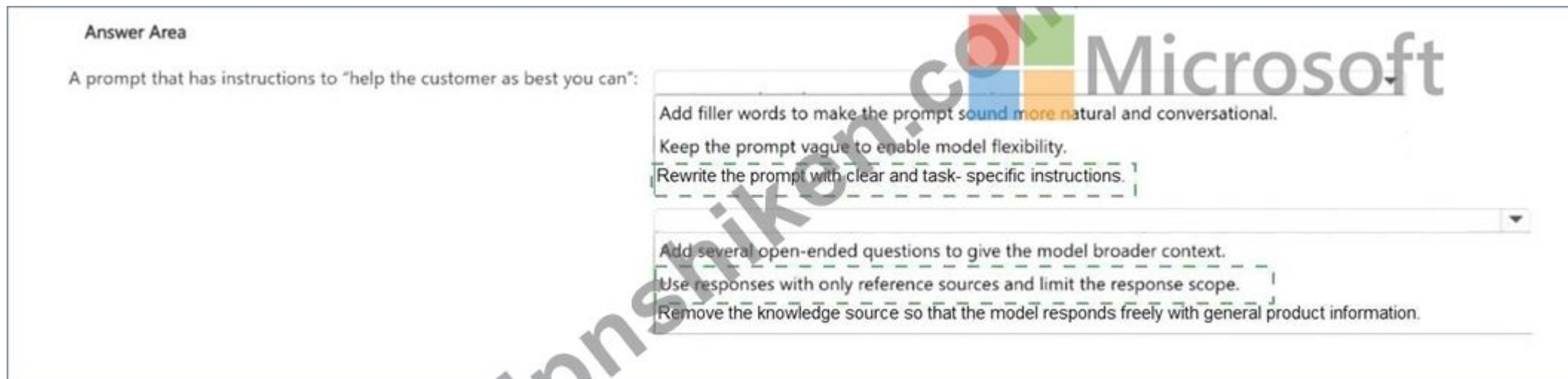
Rewrite the prompt with clear and task- specific instructions.

Add several open-ended questions to give the model broader context.

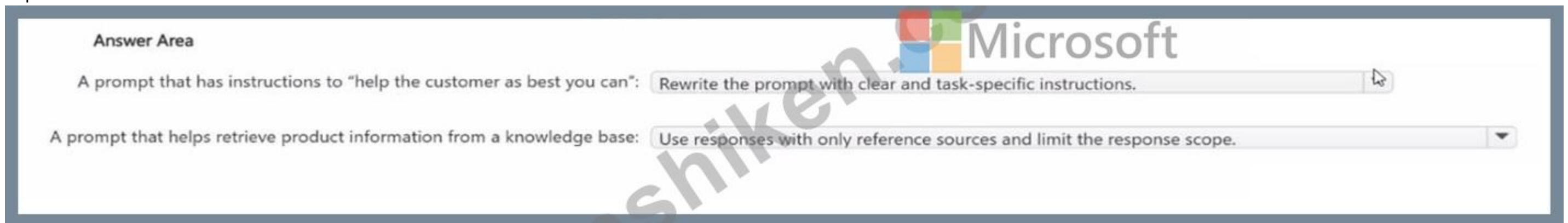
Use responses with only reference sources and limit the response scope.

Remove the knowledge source so that the model responds freely with general product information.

正解:



Explanation:



この質問は、Microsoft Copilot Studioエージェントが一貫性のある正確な回答を返すように、プロンプトの品質を向上させることに関するものです。

最初の指示「お客様をできる限りサポートしてください」は曖昧すぎます。モデルに実行すべきタスク、従うべき制約、期待される応答の種類が明確に示されていません。適切な改善策は、明確でタスク固有の指示を含む指示に書き換えることです。明確な指示は曖昧さを減らし、エージェントの動作をより予測可能で再現性の高いものにします。

2つ目の質問では、エージェントはナレッジベースから製品情報を取得しています。回答の正確性と妥当性を保つためには、参照元のみを用いた回答を使用し、回答範囲を限定することが最善の方法です。これにより、モデルが承認済みのナレッジに忠実であり続け、根拠のない製品情報を捏造することがなくなります。

他の選択肢が正しくない理由：

- * プロンプトをより自然で会話的に聞こえるようにするためにフィラーワードを追加しても、正確性や一貫性は向上しません。
- * モデルの柔軟性を高めるためにプロンプトを曖昧に保つと、一貫性が失われます。
- * モデルに幅広い文脈を与えるために、いくつかの自由回答形式の質問を追加すると、回答の焦点がぼやける可能性があります。
- * 知識源を削除して、モデルが一般的な製品情報で自由に応答するようにすると、信頼性が低下し、幻覚のリスクが高まります。

質問: 22

ある企業は、AIを活用した顧客サービスアプリを導入する計画を立てている。このアプリは、顧客とのやり取りを自律的に管理し、複雑なケースをエスカレーションし、過去のチケットデータから学習する。

アプリ導入におけるAI投資対効果（ROAI）分析を実施する必要があります。ソリューションは、その分析の正確性を保証するものでなければなりません。

まず最初に何をすべきでしょうか？

- A. AIのパフォーマンス指標を確立する。
- B. AI市場のベンチマーク調査を実施する。
- C. 顧客体験をモデル化する。
- D. 開発、展開、運用にかかるすべてのコストを特定し、定量化する。

正解: ([正解を表示します](#))

MicrosoftベースのAIカスタマーサービスアプリケーションについて、信頼性の高いAI投資対効果 (ROAI) 分析を実施するには、まず3つの異なるコストフェーズを分類し、定量化する必要があります。開発、展開、運用。複雑なエスカレーションを管理し、過去のデータから学習できるシステムの場合、お客様のプロジェクトは 高度な」または エージェント型」AIプロファイルに該当します。

1. 開発費用（初期投資）

このフェーズでは、コアとなるAIロジックの作成、カスタム統合、およびデータ準備を行います。

2. 導入費用（初回設定費用）

これらは、アプリケーションを開発環境から本番環境に移行する際に発生するコストです。

3. 運用/保守費用（経常費用）

継続的な費用は、長期的な純利益に影響を与えるため、ROAI（投資収益率にとって非常に重要です。

参照：

<https://emerline.com/blog/ai-app-development-cost>

質問: 23

ある企業は、DeviとProdiという名前の2つのMicrosoft Power Platform環境を所有しています。Devi環境内のソリューションには、Agent1という名前のMicrosoft Copilot Studioエージェントが組み込まれています。

あなたはAgent1をProdiにデプロイする予定です。

Agent1をProdiのユーザーが利用できるようにする必要があります。ソリューションは管理作業を最小限に抑えるものでなければなりません。

あなたはどうすべきでしょうか？

A. ソリューションを管理ソリューションとしてエクスポートし、Prodi にインポートします。

B. ソリューションを管理対象外ソリューションとしてエクスポートし、Prodi にインポートします。

C. Agent1 の設定を複製して、Prodi に新しい Copilot Studio エージェントを作成します。

D. Prodi のユーザーと Agent1 を共有します。

正解: ([正解を表示します](#))

Agent1はDev1環境のソリューションに組み込まれており、最小限の管理作業でProd1にデプロイする必要があるため、推奨されるALMアプローチは、ソリューションを管理対象ソリューションとしてエクスポートし、本番環境にインポートすることです。

Aが正解である理由：

マネージドソリューションは、本番環境への導入における標準的な選択肢です。

* 彼らは、よりクリーンなガバナンスと対象環境における管理された変化を支持している。

* エージェントの再構築と比較して、手動での再作成を最小限に抑え、管理上のオーバーヘッドを削減します。他のオプションが正しくない理由：

* B. 管理されていないソリューションとしてエクスポートすることは、管理された本番環境への展開ではなく、さらなる開発に適しています。

* C. Prod1で新しいエージェントを手動で作成すると、作業量が増え、不整合のリスクが生じます。

* D. Prod1のユーザーとAgent1を共有しても、その別個の環境にソリューションは展開されません。

質問: 24

あなたは、Agent1とAgent2という名前の2つのMicrosoft Copilot Studioエージェントを設計しています。各エージェントは、以下の要件を満たす必要があります。

各エージェントは標準モデルを使用しなければならない。

各エージェントは生成型オーケストレーションを使用してはならない。

Agent1は、特定のトピックに関して、シンプルで短いフレーズをサポートする必要があります。

Agent2は、Microsoft Dynamics 365 Contact Centerの音声チャネルと統合する必要があります。

エージェント向けに言語モデルを推奨する必要があります。
各エージェントに対して、どのようなアドバイスをすべきでしょうか？

Language models

Azure Language in Foundry Tools

Azure OpenAI

Conversational language understanding (CLU)

Natural language understanding (NLU)

Natural language understanding + (NLU+)

Answer Area

Language model

Agent1:

Agent2:



正解:

Language models

Azure Language in Foundry Tools

Azure OpenAI

Conversational language understanding (CLU)

Natural language understanding (NLU)

Natural language understanding + (NLU+)

Answer Area

Language model

Agent1: Natural language understanding (NLU)

Agent2: Natural language understanding + (NLU+)



Explanation:

エージェント1 = NLU
エージェント2 = NLUとNLU+

<https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-copilot-studio/nlu-overview> Agent1 は、特定のトピックに対してシンプルで短いフレーズをサポートする必要があります。これは、Copilot Studio における NLU の典型的な使用例です。NLU は、ユーザーがトピックに関連付けられた短く予測可能な発話を入力する、標準的な意図認識のために設計されています。
これにより、NLUは以下のような用途に最適です。

- * 狭いトピックのトリガー
- * 短いフレーズのマッチング
- * 標準的な、非生成的なエージェントの動作

Agent2 = NLU+ の理由

Agent2はMicrosoft Dynamics 365 Contact Centerの音声チャネルと統合する必要があります。その場合、記載されている標準モデルの中ではNLU+が 最適な選択肢となります。
NLU+は 標準的なNLUアプローチを拡張したもので、音声エクスペリエンスなどのより高度なエンタープライズチャネル統合において、より強力な言語理解サポートが必要なシナリオに合わせたモデルです。要件には明示的に次のように記載されています。
* 標準モデルを使用する
* 生成オーケストレーションは使用しないでください
NLU+は 、Azure OpenAIやその他の生成型オプションよりも適している。

質問: 25

ある企業はMicrosoft Foundryエージェントを使用しています。
エージェントを更新することなく、実行時に外部ツールを動的に使用できるようにする必要があります。

解決策には何を含めるべきでしょうか？

- A. モデルコンテキストプロトコル (MCP)サーバー
- B. マイクロソフト・ファウンドリー ハブ
- C. Microsoft Copilot Studio
- D. Azure AI Search

正解: ([正解を表示します](#))

正解はAです。モデルコンテキストプロトコル (MCP)サーバー。

Microsoft Foundryエージェントのシナリオでは、MCPを使用することで、エージェントが実行時に外部ツールを動的に検出して使用できるようになります。これにより、新しいツールや機能が追加されるたびにエージェント自体を変更する必要がなくなります。

これが正しい理由：

* MCPは、ツールがエージェントに公開される方法を標準化します。

* エージェントが柔軟な実行時駆動方式で外部機能に接続できるようにする

* 新しいツールは、コアエージェント定義を再構築または更新することなく、MCPサーバーを通じて利用可能にすることができます。これは、以下の要件に直接合致しています。

「エージェントを更新することなく、実行時に外部ツールを動的に使用できるようにすること。」他の選択肢が正しくない理由：

* B. Microsoft Foundry ハブ ハブは、動的ランタイム ツールの公開のためではなく、AI リソース/プロジェクトの整理と管理のために主に使用されます。

* C. Microsoft Copilot Studio Copilot Studio は会話型エージェントとワークフローを構築するためのものですが、質問は特に Foundry エージェントでの動的な外部ツールの使用についてです。

* D. Azure AI Search Azure AI Searchは、知識のインデックス作成と取得のためのものであり、実行可能な外部ツールを動的に公開するためのものではありません。

質問: 26

事例研究1 - ファブリカム社

背景

ファブリカム社は、グローバルな消費財企業であり、インフラ全体をマイクロソフトのクラウドに移行するデジタル変革イニシアチブを進めています。このクラウド移行の重要な要素として、同社は Microsoft Dynamics 365 Salesを導入し、企業間取引 (B2B) 営業チームが現在使用しているオンプレミスの独自技術から脱却します。

クラウド移行の一環として、FabrikamはビジネスソリューションにおいてAIファーストのアプローチを採用し、可能な限りAIソリューションを導入して業務効率化を図ります。

問題提起

Fabrikamのインフラは現在、様々なオンプレミスシステムに依存しており、営業担当者は顧客とのやり取りの際に、物理キーボードを備えた社内コンピュータを使用して業務情報にアクセスする必要があります。これらのシステムはキーボード入力に依存しているため、携帯電話はこれらの用途には使用できません。結果として、営業担当者は顧客対応に集中する代わりに、複数の異なるシステムやファイルサーバーでデータを検索するためにキーボード操作に多くの時間を費やしています。これは顧客体験に悪影響を与えています。

Fabrikamの関係者は、ユーザーがAIの導入に躊躇するのではないかと懸念しています。AIイニシアチブが採用されなければ、コスト削減効果は決して実現しません。さらに、今後のAIイニシアチブへの資金提供は、AIの導入率が月ごとに増加していることを示すかどうかにかかっています。営業チーム向けのAIエージェント導入はFabrikamにとって初めての試みとなるため、エージェントの迅速な導入が最優先事項です。

計画されている取り組み

一般的な

Fabrikamの経営陣は、効率性、顧客エンゲージメント、そして責任あるAI導入を促進するため、AIを活用したプロジェクトを優先的に進めています。現在のアプリケーションインフラはオンプレミス環境にあり、これらの技術導入をサポートするためにはクラウドへの移行が必要です。

インフラストラクチャ移行

Fabrikamは、現在のオンプレミス型インフラストラクチャから完全にクラウドベースのトポロジーへの移行を計画しています。これには、ユーザー認証、セキュリティフレームワーク、そして何よりもエンドユーザーによるサービスの導入が含まれます。

さまざまなシステムからのすべてのデータは、単一のデータソース、つまり共通のデータモデルに統合されます。このデータモデルは、Microsoft Dataverse環境を営業チームにとっての唯一の信頼できる情報源（SSOT）として使用します。

販売サイクルの実現

ファブリカム社は、会社の目標達成のため、販売サイクルを強化するために以下の戦略を実施する予定です。

- ローコード開発を使用して、データバースをその中核コンポーネントとする。
- 営業マネージャーが未回答の通信にアクセスできることを確認してください
- 見込み客を評価し、必要に応じて介入する。
- 以前の独自ソフトウェアを Dynamics 365 Sales に置き換えて

販売サイクルと顧客とのやり取りを追跡する。

- 営業担当者に Dynamics 365 Sales を使用して追跡させる

オープンな機会に関するやり取りを行い、フォローアップの連絡を送信します。

見込み客へ。

- 営業担当者にハンズフリーヘッドセットを使用して顧客とやり取りさせる

AIエージェントは、内部ポリシーや顧客に関する質問がある場合に

データ。

要件

インフラストラクチャ移行

Fabrikamは、以下のインフラストラクチャ移行要件を特定しました。

- 今後のすべてのインフラストラクチャワークロードにはAzureを使用する必要があります。
- 会社は、マイクロソフトが推奨する方法論に従わなければならない。

インフラストラクチャのクラウドへの移行。

- 作成されたAIエージェントはすべて、投資収益率（ROI）を確保する必要がある。

そのソリューションが会社のコスト削減につながるよう計算されている。

販売サイクルの実現

Fabrikamは、販売サイクルの実現に関して以下の要件を特定しました。

- 最終的なAIエージェントは、Microsoftの推奨事項に従う必要があります。

対話型のユーザーエクスペリエンス。

- AIエージェントが

準拠したソリューションを実現するために、マイクロソフトの導入推奨事項に従います。

- 最初に作成された AI エージェントの詳細なテレメトリをログに記録する必要があります。

初期AIエージェントのトラブルシューティングと最適化を支援します

採用プロセス。

- 予期せぬAIエージェントの行動は、ライブ配信へのエスカレーションで終了しなければならない

担当者。たとえば、営業担当者は

2回失敗した後もエージェントが質問に答えられない場合、担当者が対応します。

試み。

- 現在のプロセスから切り替えた場合の投資収益率（ROI）

今後のプロセスには、関係者の承認が必要となる。

- 営業チームは、Dynamics 365 Sales を使用して、見込み客を現在よりも迅速かつ効率的に把握する。

- 営業マネージャーは、AIエージェントの導入状況を主要顧客に報告する必要があります
ファブリカムのステークホルダーに対し、毎月情報を提供する。

AIエージェントを介して共有されるユーザーIDや名前などの機密情報は、将来の監査のために追跡する必要があります。

ホットスポットに関する質問

AIエージェントのステークホルダー承認に必要な指標を収集するために、既存のツールとデータのうちどれを使用すべきでしょうか？回答するには、回答欄で適切なオプションを選択してください。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Answer Area

Tool:

Microsoft Foundry

Azure Resource Monitor (ARM)

Dynamics 365 Sales

Microsoft Copilot Studio

Data required for the tool:

the cumulative time spent on the task over the past year

the current cost to complete the tasks per instance

the current time to complete the task today per instance

the current cost of the Dynamics 365 Sales licenses

正解:

Answer Area

Tool:

Microsoft Foundry
Azure Resource Monitor (ARM)
Dynamics 365 Sales
Microsoft Copilot Studio

Data required for the tool:

the cumulative time spent on the task over the past year
the current cost to complete the tasks per instance
the current time to complete the task today per instance
the current cost of the Dynamics 365 Sales licenses

Explanation:

シナリオ :

関係者の承認を得るには、現行プロセスから将来のプロセスへの移行による投資対効果 (ROI)を示す必要がある。

ボックス1 :マイクロソフト・ファウンドリー

道具

AIエージェントとDataverseを使用したMicrosoft AIソリューションに対するステークホルダーの承認を得るために、Azure AI Foundry (Azure AI Studio)は、5つの主要な「ROIレバー」にわたる指標を収集するための構造化されたフレームワークを提供します。

1. Foundryを使用して主要なROI指標を特定する

Foundry ROIフレームワークを使用して、現在の手動プロセスと将来のAI駆動型プロセスを比較するデータを分類および収集します。

2. Foundryツールを使用してデータを収集する

Foundryは、ビジネスケースに必要な証拠を生成するための具体的な技術的機能を提供します。

3. 投資収益率 (ROI)を計算する

指標が収集されたら、ビジネスケースに対してマイクロソフトが推奨する標準的な計算式を適用します。

ボックス2 : 各インスタンスにおける本日中のタスク完了予定時刻

ツールに必要なデータ

Microsoft Foundry ROIフレームワークでは、タスクを完了するために必要な現在の時間を示す指標は、通常「インスタンスあたりの現在の時間」または「タスク期間 (ベースライン)」と呼ばれます。この値は、新しいAIエージェントソリューションによる効率向上を計算する際の主要な「導入前」ベンチマークとして機能します。

参照 :

<https://itnext.io/stop-wasting-tokens-how-to-design-high-roi-ai-apps-on-microsoft-foundry-616622ddead6>

<https://techcommunity.microsoft.com/blog/azure-ai-foundry-blog/a-framework-for-calculating-roi-for-agentic-ai-apps/4369169>

質問: 27

顧客サポート向けに、Microsoft Power Platform ソリューションを推奨する必要があります。このソリューションには、Microsoft Power Automate の AI 機能が含まれている必要があります、以下の要件を満たしている必要があります。

* AIモデルには集中型ワークスペースを使用してください。

* 追加のトレーニングやコーディングを必要とせずに、症例記録や議事録などの大量の非構造化テキストから短い概要を生成します。

各要件に対する推奨事項には何を含めるべきでしょうか？回答するには、回答欄で適切な選択肢を選んでください。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Answer Area

Use a centralized workspace:

- An Microsoft Foundry hub
- Azure OpenAI Foundry
- Microsoft Copilot Studio
- Microsoft Dataverse

Generate short overviews:

- An AI Builder prebuilt model
- An AI Builder prebuilt prompt
- Azure OpenAI
- GitHub Copilot
- Microsoft Copilot in Power Automate

正解:



Explanation:
Answer Area



1. AIモデルのための集中型ワークスペース

進化を続けるマイクロソフトのAIエコシステムにおいて、Azure AI Foundry (旧 Azure AI Studio) は、開発者や組織がAIモデルを構築、管理、展開するための、統合された集中型ワークスペースとして機能します。

* 統合ハブ :モデルカタログへのアクセス、デプロイメントの管理、迅速なエンジニアリングの実行を単一の場所で提供します。

* 統合: AI Builder は Power Automate の市民開発者向けの「フロントエンド」ですが、Azure AI Foundry は基盤となる「エンジンルーム」であり、基となるモデル (プロンプトで使用するものを含む) がエンタープライズレベルで管理および統制されます。

* スケーラビリティ : 組織は独自のカスタムモデルをホストしたり、業界をリードする基盤モデル (GPT-4o など) を利用したりすることができ、それによってPower Platformの下流機能が強化されます。

2. トレーニングやコーディングなしで短い概要を生成する

症例記録や議事録などの大量の非構造化テキストを、手作業なしで要約するには、AI Builderの事前構築済みプロンプトが最適なソリューションです。

* AI Builder 事前構築済みプロンプト :これらは、一般的なビジネス業務向けに設計された、すぐに使用できる GPT ベースの手順です。特に、「AI Summarize」事前構築済みプロンプトは、入力テキストを受け取り、簡潔な要約を自動的に生成するように設計されています。

* トレーニング不要 :AIに学習させるための履歴データセットを提供する必要がある「カスタムモデル」とは異なり、事前構築済みのプロンプトは、事前学習済みの大規模言語モデル (LLM) を活用します。これにより、「追加のトレーニングやコーディングは不要」という要件を満たします。

* 使いやすさ: Power Automate では、「プロンプトを使用して GPT でテキストを作成する」アクションを追加し、事前に構築されたサマリー プロンプトを選択して、ケース ノートまたはトランスクリプトからテキストを渡すだけです。

質問: 28

Microsoft Power Platform環境におけるエージェント向けのセキュリティソリューションを推奨する必要があります。

エージェントは承認済みのコネクタとサービスのみを使用する必要があります。また、エージェントが機密データにアクセスできないようにする必要があります。どのようなソリューションを推奨しますか？

- A. Microsoft Dataverse で顧客管理キーを有効にします。
- B. Power Platformでデータ損失防止 (DLP)ポリシーを展開します。
- C. Azure Monitor を構成して、コネクタのアクティビティ ログをキャプチャします。
- D. Microsoft Dataverse 監査を有効にします。

正解: **B** ([コメントを发表する](#))

要件は、Microsoft Power Platform 環境内のエージェントを保護し、以下のことを実現することです。

承認されたコネクタとサービスのみを使用してください。

機密データへのアクセスが禁止されている

正しい推奨事項はBです。Power Platformでデータ損失防止 (DLP)ポリシーを展開してください。

Bが正解である理由：

Power Platform の DLP ポリシーは、どのコネクタを一緒に使用できるか、またどのサービスが環境内で許可されるかを制御するために特別に設計されています。これにより、管理者はコネクタを業務用または非業務用として分類し、安全でないデータ フローを制限できます。これは、次の 2 つの要件を直接サポートします。

* エージェントを承認済みのコネクタ/サービスに限定する

* 承認されていない、または危険なコネクタの使用によるデータ漏洩を防ぐ 他の選択肢が正しくない理由：

* A. Microsoft Dataverse で顧客管理キーを有効にする。これは暗号化の制御に役立ちますが、コネクタの使用を制限したり、エージェントを介したデータ移動を防止したりするものではありません。

* C. Azure Monitor を構成してコネクタ アクティビティ ログをキャプチャします。ログの監視は可視性を高めるのに役立ちますが、コネクタの制限を強制したり、機密データへのアクセスを防止したりするものではありません。

* D. Microsoft Dataverse 監査を有効にする 監査は事後的にアクティビティを記録します。承認されていないコネクタや機密データの漏洩を事前にブロックするものではありません。

質問: 29

CEOがそれぞれの職務を遂行する上で、どのような支援を推奨すべきでしょうか？

- A. マイクロソフトの視点
- B. コンプライアンスセンター
- C. Microsoft Foundry Tools
- D. 責任あるAIダッシュボード
- E. マイクロソフト サービス トラスト ポータル

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 30

あなたは、以下のコンポーネントを含むAIビジネスソリューションを設計しています。

- Microsoft Power Automateワークフロー
- Microsoft Copilot Studio エージェント
- Microsoft Dataverse データベース
- Microsoft Power Apps アプリ

アプリケーションライフサイクル管理 (ALM) プロセスの一環として、コンポーネントをパッケージ化し、グループとして他の環境にデプロイできるようにする予定です。

バージョン管理、依存関係、デプロイメントをサポートするソリューションを推奨する必要があります。

推薦状には何を含めるべきでしょうか？

A. GitHub Actions

B. Azure DevOps

C. マイクロソフト Power Platform ソリューション

正解: ([正解を表示します](#))

Power Automateワークフロー、Copilot Studioエージェント、Dataverseデータベース、Power Appsアプリなど、AIビジネスソリューションのコンポーネントをパッケージ化するには、Microsoft Power Platformソリューションを使用する必要があります。

GitHub ActionsとAzure DevOpsはデプロイプロセス (CI/CD) を自動化するための強力なツールですが、ソリューションは、これらの特定のPower Platformアセットをまとめて、環境間で単一のユニットとして移動できるようにするために必要な、実際の「メンテナンス」またはパッケージングメカニズムです。

参照：

<https://learn.microsoft.com/en-us/power-apps/maker/data-platform/solutions-overview>

質問: **31**

Solution1 という名前のソリューションを含む Microsoft Power Platform 環境向けに、アプリケーションライフサイクル管理 (ALM) プロセスを設計する必要があります。

解決策1には、Microsoft Dynamics 365 Customer ServiceのCopilot用のカスタムコネクタを含める必要があります。

解決策1は以下の要件を満たす必要があります。

* カスタムコネクタがALMプロセスの一環として、複数の環境に一貫して展開できることを確認する。

* カスタムコネクタは開発環境でのみ編集できるようにする。

デザインには何を含めるべきでしょうか？

A. カスタムコネクタを共有します。

B. Solution1にカスタムコネクタを追加します。

C. デフォルトソリューションでカスタムコネクタを作成します。

D. GitHubにカスタムコネクタを追加します。

正解: ([正解を表示します](#))

要件は、Power Platform ALMの典型的な要件です。

* カスタムコネクタは、環境間で一貫して展開する必要があります。

* 開発環境でのみ編集可能であるべきです

正しい設計上の選択は、カスタムコネクタをソリューション1に追加することです。

Bが正解である理由：

* カスタムコネクタをソリューション内に配置すると、ALMパッケージの一部になります。

* これにより、環境間で一貫したエクスポートとインポートが可能になります。

* 本番環境では、管理ソリューションを通じて適切にデプロイされた場合、自由に編集することはできません。これは、編集は開発環境でのみ行われるという要件を裏付けています。他のオプションが正しくない理由：

* A. カスタムコネクタ制御のアクセスを共有するが、ALMパッケージングとデプロイメントの一貫性は共有しない。

* C. デフォルトソリューションでカスタムコネクタを作成することは、制御されたデプロイメントのための推奨されるALMアプローチではありません。

* D. カスタムコネクタをGitHubに追加することでソース管理は改善される可能性がありますが、それだけではPower Platformの環境横断的な展開パッケージング要件を満たすことはできません。

有効的な**AB-100**問題集はJPNTTest.com提供され、**AB-100**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**AB-100**試験問題集を提供します。JPNTTest.com AB-100試験問題集はもう更新されました。ここで**AB-100**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/AB-100-mondaishu> 147問、30%**ディスカウント**、特別な割引コード：**JPNshiken**」

質問: 32

ある企業はMicrosoft 365 Copilotエージェントを導入している。

エージェント向けのセキュリティソリューションを設計する必要があります。ソリューションは以下の要件を満たす必要があります。

AIの利用に関連する潜在的なリスクを特定し、軽減する。

AIアプリおよびエージェントによって処理または生成される機密データを保護する。

相互作用の記録と保存、ポリシー違反の検出、およびインシデントの調査を通じて、責任あるAIガバナンスを支援します。

設計に含めるべき2つの要素はどれですか？それぞれの正解は、解決策の一部を示しています。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

A. マイクロソフトの視点

B. Azure AI コンテンツセーフティ

C. Microsoft Foundry におけるロールベースアクセス制御 (RBAC)

D. マイクロソフト ディフェンダー

正解: ([正解を表示します](#))

Agentic AI Business Solutionsによる包括的かつ詳細な解説トピック：

正解はA. Microsoft PurviewとD. Microsoft Defenderです。

この質問は、Microsoft 365 Copilotエージェントのエンタープライズセキュリティおよびガバナンス設計について尋ねています。

要件は、主に3つの管理領域に及ぶ。

* AI関連リスクの特定と軽減

AIアプリと機密データを保護する

* 操作の保持/ログ記録、ポリシー違反の検出、インシデントの調査。リストにあるツールで、これらのニーズをすべて完全に満たすものではありません。最適なソリューションは、Microsoft Purview と Microsoft Defender の組み合わせです。

A. Microsoft Purview が正しい理由

Microsoft Purviewは、以下の要件に最も適しています。

* 機密データの保護

* AI利用のガバナンス

* やり取りの保持と記録

* ポリシー違反の検出

* 調査およびコンプライアンスプロセスのサポート

Purviewは、マイクロソフトの情報保護、コンプライアンス、内部リスク管理、監査、データガバナンス機能の中核を成すものです。Microsoft 365 Copilotエージェントのコンテキストにおいて、Purview は組織に以下のメリットをもたらします。

機密データを分類およびラベル付けする

* データ損失防止対策を適用する

* 記録とやり取りを保持する

* 監査活動

政策課題を調査する

* 責任あるAIガバナンスの実践を支援する

AIビジネスソリューションの観点から見ると、これは非常に重要です。なぜなら、AIコパイロットは機密性の高い企業情報を処理することが多く、組織はその情報がどのように使用され、公開され、管理されているかを可視化する必要があるからです。

D. Microsoft Defenderが正しい理由

Microsoft Defenderは、AIの使用に関連する潜在的なリスクを特定して軽減し、AIアプリを保護するという要件に対応します。

Defenderは、アプリケーションの監視と保護、脅威の検出、脆弱性の特定、インシデント対応のサポートを支援する、より広範なセキュリティレイヤーです。AI対応のエンタープライズソリューションでは、Defenderはアプリケーション環境のセキュリティを強化し、AIシステムやAIが使用するデータに影響を与える可能性のあるリスクパターンを検出します。

これは重要です。なぜなら、AIセキュリティはコンテンツとコンプライアンスだけに関わるものではないからです。それには以下も含まれます。

* 脅威検出

* アプリ保護

* 攻撃対象領域の認識

* 不審な活動の監視

* 事件調査

Defenderは、セキュリティ体制と脅威防御という側面に重点を置くことで、Purviewを補完する役割を果たします。

他の選択肢が間違っている理由

B). Azure AI コンテンツの安全性

Azure AI Content Safety は、有害または安全でない AI 生成コンテンツやユーザー提供コンテンツをフィルタリングする上で非常に役立ちます。

しかし、これは企業データ保護、インタラクション保持、ポリシーログ記録、ガバナンス、インシデント調査といった、より広範な要件に完全には対応していません。有用ではありますが、最適な2部構成のソリューションとは言えません。

C) Microsoft Foundry におけるロールベースアクセス制御 (RBAC)

RBACはアクセス管理において重要ですが、このオプションは範囲が狭すぎ、今回の質問におけるMicrosoft 365 Copilotエージェントには最適ではありません。必要なガバナンス、データ保持、ポリシー違反の検出、調査機能が網羅されていないためです。

専門家の推論

この種の問題を解決する良い方法は、要件を2つの制御ドメインに分割することです。

* データガバナンス、データ保持、ポリシー、コンプライアンス # Microsoftの見解

* 脅威保護、リスク軽減、アプリのセキュリティ、調査サポート # Microsoft Defender この組み合わせは、リストされているオプションの中で最も包括的な回答を提供します。

質問: 33

ドラッグアンドドロップ問題

以下の要件を満たすMicrosoft Copilot Studioエージェントを設計する必要があります。

- 対話型の音声応答に対応

意思決定と応答の精度を最適化します

各要件に対して、設計には何を含めるべきでしょうか？回答するには、適切なオプションを該当する要件にドラッグしてください。各オプションは、1回、複数回、またはまったく使用しない場合があります。コンテンツを表示するには、ペイン間の分割バーをドラッグするか、スクロールする必要がある場合があります。

Options	Answer Area	Option
A deep reasoning model	Supports interactive speech responses:	
Azure Language in Foundry Tools	Optimizes decision-making and response accuracy:	
Azure AI Speech		
Copilot Studio voice features		
Speech Synthesis Markup Language (SSML)		

正解:

Options	Answer Area	Option
Azure Language in Foundry Tools	Supports interactive speech responses:	Copilot Studio voice features
Azure AI Speech	Optimizes decision-making and response accuracy:	A deep reasoning model
Speech Synthesis Markup Language (SSML)		

Explanation:

ボックス1 :Copilot Studioの音声機能

対話型の音声応答に対応

Microsoft Copilot Studio エージェントで対話型の音声応答をサポートするには、専用の音声機能を組み込む必要があります。これらの機能により、エージェントはチャットベースのやり取りを超えて、音声ベースの入力（音声認識と出力（音声合成）を処理できるようになります。

ボックス2 : 深層推論モデル

意思決定と応答の精度を最適化します

Microsoft Copilot Studioにディープラーニングモデル（具体的にはAzure OpenAI o3）を統合することで、複数ステップの分析、論理的推論、複雑な複数ターンの会話処理が可能になり、意思決定と精度が最適化されます。この機能は、指示内の「reason」キーワードによって有効化され、エージェントが大規模なデータセットを分析し、状況に応じた分かりやすい回答を提供できるようになります。これは、財務分析やコンプライアンスといったシナリオに最適です。

参照 :

<https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-copilot-studio/voice-overview>

<https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-copilot-studio/faqs-reasoning>

質問: 34

ある企業はMicrosoft Copilot Studioエージェントを導入している。

同社は、開発、テスト、本番環境全体にカスタムコネクタを展開する計画だ。

一貫性を確保し、本番環境での直接編集を防止するために、アプリケーションライフサイクル管理 (ALM) プロセスを設計する必要があります。設計に含めるべき2つのアクションはどれですか？それぞれの正解は、解決策の一部を示しています。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

- A. ソリューションにエージェントとコネクタを含めます。
- B. データのエクスポートとインポートを使用して、エージェントを環境間で移動します。
- C. 各環境でエージェントを手動で再構築します。
- D. マネージドソリューションを本番環境にデプロイします。
- E. 管理されていないソリューションを本番環境にデプロイします。

正解: **A,D** ([コメントを发表する](#))

Microsoft Copilot Studio ALM を開発、テスト、本番環境全体で活用するには、アプリのコンポーネントを適切にパッケージ化し、本番環境では制御されたデプロイメントを使用するのが正しいアプローチです。

A) エージェントとコネクタをソリューションに含めるのは正しい方法です。ソリューションは、コンポーネントを環境間で一貫して移動するための標準的な Power Platform ALM コンテナだからです。エージェントとカスタムコネクタの両方をソリューションに含めることで、それらが一緒に移動され、整合性が保たれます。

D) マネージドソリューションを本番環境にデプロイすることも正解です。なぜなら、マネージドソリューションは本番環境での使用を想定して設計されているからです。マネージドソリューションは、本番環境での直接編集を防ぎ、より強力なガバナンスとリリース管理をサポートします。

他の選択肢が正しくない理由：

- * B. データのエクスポートとインポートを使用してエージェントを環境間で移動することは、Copilot Studio コンポーネントに対して推奨される ALM アプローチではありません。
- * C. 各環境でエージェントを手動で再構築すると、一貫性が失われ、労力とリスクが増加します。
- * E. 管理されていないソリューションを本番環境にデプロイすると、直接変更が容易になり、本番環境での直接編集を防止するという要件と矛盾します。

質問: 35

四半期ごとのエージェント分析において、CFOはカスタムAIエージェント設計のどの2つの要素を評価すべきでしょうか？それぞれの正解は、解決策の一部を示しています。

注：正解ごとに1ポイント獲得できます。

- A. エージェントに使用されるGPTモデル
- B. チャットメッセージの平均文字数
- C. エージェントあたりの平均セッション時間
- D. エージェントオーケストレーション手法

正解: ([正解を表示します](#))

CFOの四半期分析は、以下の点を比較することに重点を置いています。

*推定投資収益率

* 実際に測定された効率

* 実際の採用

このケーススタディでは、CFOがCopilot Studioのエージェント使用状況予測ツールを使用することが明記されています。このような分析においては、エージェントの運用上の使用方法や、インタラクションの処理方法に影響を与える設計要素が最も重要となります。

C. エージェントあたりの平均セッション時間が正しい理由：

平均セッション時間は、実用性と導入状況を示す指標です。CFOは、ユーザーがエージェントとどれだけやり取りしているか、またエージェントが効率的に労力を削減しているか、それとも長くてコストのかかるやり取りを生み出しているかを把握するのに役立ちます。

D.のエージェントオーケストレーション方式が正しい理由：

オーケストレーション方式は、エージェントがリクエストを処理する方法、ツールを呼び出す方法、知識源を利用する方法、およびリソースを消費する方法に影響を与えます。これは運用効率とコストの両方に影響を与える可能性があるため、ROI分析において重要です。

- 他の選択肢が最適ではない理由：
- * A. エージェントに使用される GPT モデル モデルの選択は技術的には重要ですが、CFO の四半期ごとの Copilot Studio 推定器ベースの分析は、モデル選択の詳細よりも使用状況とオーケストレーションの動作に重点を置いています。
 - * B. チャットメッセージの平均文字数 これは細かすぎるため、ROI や導入分析のための主要なビジネス向け指標ではありません。

質問: 36

ドラッグアンドドロップ問題

ある企業は、Microsoft Copilot Studioエージェントを3か月間運用している。

当該エージェントはユーザーから好意的なフィードバックを受けている。

エージェントが回答しなかった質問の数と、ユーザーとエージェント間のセッションが中断された回数を特定する必要があります。

どのCopilot Studioインサイトを使用すべきでしょうか？回答するには、適切なインサイトを正しい要件にドラッグしてください。各インサイトは、1回、複数回、またはまったく使用しない場合があります。コンテンツを表示するには、ペイン間の分割バーをドラッグするか、スクロールする必要がある場合があります。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Insights

Conversation outcomes

Generated answer rate and quality

Reactions

Survey results

Answer Area

Insight

The number of unanswered questions:

The number of abandoned sessions:

Insights

Reactions

Survey results

Answer Area

Insight

The number of unanswered questions: Generated answer rate and quality

The number of abandoned sessions: Conversation outcomes

Explanation:

ボックス1：生成された回答、評価、品質

未回答の質問の数

Microsoft Copilot Studioでは、分析ページに移動し、「生成された回答率と品質」セクションを表示することで、未回答の質問数を確認できます。

この特定の分析領域では、エージェントが応答を正常に生成する頻度と、応答を生成できない場合の頻度に関する洞察が得られます。

ボックス2：会話の結果

ユーザーとエージェント間の放棄されたセッションの数

Microsoft Copilot Studioエージェントの分析で放棄されたセッション数を確認するには、分析ダッシュボード内の「会話結果」チャートを使用できます。このチャートは、「放棄」という結果になったセッションを具体的に追跡し、視覚化します。

参照：

<https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-copilot-studio/whats-new>

<https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-copilot-studio/analytics-improve-agent-effectiveness>

質問: 37

ある企業は、顧客からのフィードバックを要約し、顧客に製品を推奨するMicrosoft Foundryエージェントを導入している。このエージェントは、複数の知識ソースからのデータを参照する。

ユーザーからは、エージェントの応答時間が遅いとの報告が寄せられている。

テレメトリデータによると、エージェントがトークン使用制限に頻繁に達していることが示されています。生成される応答の品質を低下させることなく、トークン使用量を削減するための解決策を提案する必要があります。

何をおすすめしますか？

- A. インデックス作成時にドキュメントをチャンク化します。
- B. レスポンスにおけるトークン使用上限値を下げます。
- C. エージェントが使用する知識源の数を減らす。
- D. プロンプトを再設定して、知識ソースから取得するコンテンツの量を制限します。

正解: ([正解を表示します](#))

問題はエージェントの動作が遅いことだけではありません。テレメトリデータによると、トークン使用制限に頻繁に達していることが具体的に示されています。つまり、モデルが回答を生成する前に、プロンプトウィンドウまたはコンテキストウィンドウに大量のコンテンツが取り込まれているということです。

最適な推奨事項はDです。プロンプトを再設定して、知識ソースから取得するコンテンツの量を制限してください。

Dが正解である理由：

- * 取得されたコンテキストからのトークンが多すぎるという根本原因に直接対処します
- * 不要な文脈を減らしつつ、最も関連性の高い情報を保持します
- * 単に機能を削ったり、出力サイズを厳しく制限したりするよりも、応答品質をより良く維持するのに役立ちます。他のオプションが適さない理由：
 - * A. インデックス作成時にドキュメントをチャンク化することで、一部の RAG シナリオでは検索品質が向上する可能性があります。最終プロンプトで取得されるトークンの総量が直接的に減少するとは限りません。
 - * B. レスポンスにおけるトークン使用上限を下げると出力長は短縮される可能性があるが、入力コンテキストの過剰使用は解決されず、レスポンスの品質を損なう可能性がある。
 - * C. エージェントが使用する知識源の数を減らすのはあまりにも大雑把で、有用な根拠を不必要に取り除いてしまう可能性がある

質問: 38

あなたは、Microsoft Dynamics 365 Sales と Dynamics 365 Finance を使用するビジネス ソリューションのエンドツーエンド テスト シナリオを設計しています。ビジネス ソリューションが以下のテスト要件を満たしていることを確認する必要があります。

- * Dynamics 365アプリ間でデータを適切に交換します
- * 定義されたユーザーワークフローおよびビジネスプロセスに準拠する

各要件にはどのタイプのテストを使用すべきでしょうか？回答するには、適切なテストタイプを該当する要件にドラッグしてください。各テストタイプは、1回、複数回、または全く使用しない場合があります。コンテンツを表示するには、ペイン間の分割バーをドラッグするか、スクロールする必要がある場合があります。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Testing types	Answer Area
☐ Drift ☒ Exploratory ☒ Integration ☐ Performance ☐ User acceptance	Properly exchanges data between the Dynamics 365 apps: Aligns with defined user workflows and business processes:

正解:

Testing types	Answer Area
☐ Drift ☐ Exploratory ☐ Integration ☐ Performance ☐ User acceptance	Properly exchanges data between the Dynamics 365 app: ☒ Integration Aligns with defined user workflows and business processes: ☒ User acceptance

Explanation:

Testing types	Answer Area
☒ Drift ☐ Exploratory ☐ Integration ☐ Performance ☐ User acceptance	Properly exchanges data between the Dynamics 365 apps: Integration Aligns with defined user workflows and business processes: User acceptance

Dynamics 365 SalesとDynamics 365 Financeを使用するソリューションのエンドツーエンド検証を行うには、テストの種類を各要件の目標に一致させる必要があります。

Dynamics 365 アプリ間でデータを適切に交換するには、統合テストが適切なテストタイプです。これにより、システムが正しく接続され、データが正確に渡され、アプリ間で一貫性が維持されることが検証されます。

定義されたユーザーワークフローとビジネスプロセスに合致させるためには、ユーザー受け入れテストが適切なテストタイプです。これは、ソリューションがユーザーの期待どおりに実際のビジネスタスクをサポートしているか、また意図された運用プロセスに適合しているかに焦点を当てています。

他の選択肢がここでは正しくない理由：

- * ドリフトとは、時間の経過とともに変化する現象であり、多くの場合、モデルや動作の一貫性に変化が生じます。
- * 探索的アプローチは予期せぬ問題を発見するのに役立ちますが、提示された要件に最も適した方法ではありません。
- * パフォーマンスは、ワークフローへの適合性ではなく、速度、規模、応答性に重点を置いています。

質問: 39

ある企業が、Microsoft Dynamics 365 Contact Centerのエージェントを導入する計画を立てている。担当者が会話をライブのカスタマーサービス担当者に転送できることを確認する必要があります。解決策に含めるべき2つの要素はどれですか？それぞれの正解は、解決策の一部を示しています。
注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

- A. マイクロソフトファウンドリー
- B. Microsoft Copili Studio
- C. Microsoft 365 Agents Toolkit
- D. Azure AI Bot Service スキル
- E. 顧客エンゲージメントハブ

正解: B,E (コメントを发表する)

Agentic AI Business Solutionsによる包括的かつ詳細な解説トピック：

正解はB. Microsoft Copilot StudioとE. Customer engagement hubです。

この質問は、Dynamics 365 Contact Centerのエージェントが会話をライブのカスタマーサービス担当者に引き継げるようにすることに焦点を当てています。そのためには、以下の両方が必要です。
会話エージェントの構築と構成に使用されるツール

* 顧客とのライブのやり取りとルーティングが行われるサービス環境 なぜ B. Microsoft Copilot Studio が正しいのか Microsoft Copilot Studio は、コンタクトセンターのエージェントエクスペリエンスを構築、構成、管理するために使用されるプラットフォームです。会話フロー、エスカレーションロジック、トリガー、ハンドオフ動作を定義できます。
この場合、エージェントが会話をライブ担当者に転送できることが具体的に求められます。Copilot Studioは、エージェントのエクスペリエンスの一部として、このエスカレーションまたは転送動作を設計する場所です。

E. 顧客エンゲージメントハブが正しい理由

顧客エンゲージメントハブは、Dynamics 365内での顧客サービス対応とライブエージェントによる対応のための運用環境を提供します。AIエージェントがエスカレーションが必要だと判断した場合、ライブエージェントは対応を受け、対応を継続するための環境を必要とします。

ビジネスソリューションアーキテクチャの観点から見ると、これは理にかなっています。

* Copilot Studioはエージェントと転送ロジックを定義します

* 顧客エンゲージメントハブは、引き継ぎ後の人間によるサービス体験をサポートします。これらが連携することで、AIから人間への引き継ぎに関するエンドツーエンドの要件を満たします。

他の選択肢が間違っている理由

A) マイクロソフト・ファウンドリー

FoundryはAIモデルとエージェント開発のシナリオをサポートしますが、Dynamics 365 Contact Centerにおけるライブエージェント転送に必要な特定のコンポーネントではありません。

C) Microsoft 365 エージェントツールキット

これは、Dynamics 365 Contact Center をライブサービス担当者に引き継ぐためのコアコンポーネントではありません。

D) Azure AI Bot Service スキル

ボットのスキルは機能を拡張できますが、Dynamics 365 Contact Centerのエージェントからライブのカスタマーサービス担当者への標準的な引き継ぎを可能にするために必須となる主要なコンポーネントではありません。

専門家の推論：

コンタクトセンターのエスカレーションに関する質問については、2つの段階に分けて考えてください。

* エージェントの作成/オーケストレーション # Microsoft Copilot Studio

* 人間によるサービス環境／ライブ担当者との体験 # 顧客エンゲージメントハブ したがって、正しい選択肢は次のとおりです。

質問: 40

ある企業は、開発段階の異なる複数のAI関連プロジェクトを保有している。

すべての取り組みにおけるAI投資収益率 (ROAI) を評価するための体系的なアプローチを提案する必要があります。そのソリューションは、短期的な成果と長期的な価値、そして戦略的なイノベーションとのバランスを取るものでなければなりません。

推薦状には何を含めるべきでしょうか？

- A. 簡単な費用対効果分析
- B. ホライズンベースのフレームワーク
- C. 内部収益率 (IRR) 関数
- D. 優先順位付けグリッド

正解: B ([コメントを发表する](#))

Agentic AI Business Solutionsによる包括的かつ詳細な解説トピック：

正解はBです。ホライズンベースのフレームワーク。

この質問は、開発段階の異なる複数のAIイニシアチブのポートフォリオ全体にわたるROAI（投資対効果を評価することに関するものです。重要な要件は、以下の要素のバランスを取る構造化されたアプローチを使用することです。

*即効性

* 長期的な価値

* 戦略的イノベーション

その表現は、まさに時間軸に基づいた枠組みに対応するものです。

Bが正しい理由

期間ベースのフレームワークは、さまざまな期間にわたる投資を評価するように設計されており、通常、イニシアチブを次のようなカテゴリに分類します。

* 短期的な／運用上の価値

* 中期的な成長と最適化の価値

* 長期的な／変革的または戦略的なイノベーション価値

これはAIポートフォリオにとって理想的です。なぜなら、AI関連の取り組みは、同じ時間軸で価値を生み出すことは稀だからです。

例えば：

* あるAIイニシアチブにより、今四半期のサポートコストが削減される可能性がある。

* 今後1年間で予測精度が向上する可能性もある

* もう一つは実験的なものかもしれませんが、後に大きな戦略的優位性を生み出す可能性があります。ホライズンベースのフレームワークは、リーダーシップがAI投資ガバナンスにおけるよくある間違い、つまりすべてのイニシアチブを短期的なROIだけで判断することを避けるのに役立ちます。

エージェント型AIビジネスソリューションの観点からすると、これは特に重要です。なぜなら、AIポートフォリオには多くの場合、以下のような要素が混在しているからです。

* 自動化プロジェクト

副操縦士とエージェント

* 分析および予測モデル

* イノベーション・パイロットプロジェクト

* 基盤となるデータとガバナンスへの投資

これらの施策の中には、短期間で目に見えるコスト削減効果を生み出すものもあれば、能力開発、競争優位性、将来的な拡張性を通じて価値を創造するものもある。将来を見据えたフレームワークは、これらすべてをバランスよく、かつ経営層にとって分かりやすい方法で評価することを可能にする。

他の選択肢が間違っている理由

A) 単純な費用対効果分析

これは、成熟度の異なるAIイニシアチブのポートフォリオには狭すぎる。個々のプロジェクトには役立つかもしれないが、短期的な成果と長期的なイノベーション価値のバランスを効果的に取ることはできない。

C) 内部収益率 (IRR) 関数

IRRは財務評価ツールではありますが、特に戦略的かつ非即時的なメリットが重要な場合、AIイニシアチブのための最適なポートフォリオフレームワークとは言えません。AIの価値には、IRRだけでは十分に捉えきれない無形資産や能力に基づく成果が含まれることが多いからです。

D) 優先順位付けグリッド

優先順位付けグリッドは、通常、影響度や労力などの要素に基づいてイニシアチブの順位付けに役立ちますが、主に異なる期間における投資対効果 (ROAI) を評価するためのフレームワークではありません。これは、ポートフォリオ全体の収益評価ではなく、選択を支援するものです。

専門家の推論

質問にこれらのアイデアと一緒に含まれている場合：

- * 一連の取り組み
- * 発達のさまざまな段階
- * 即時のおよび長期的な価値
- * 戦略的イノベーション

最も有力な回答は、時間軸に基づいたフレームワークである。

これは、戦略的イニシアチブを過小評価することなく、短期、中期、そして変革的な視点からAI投資を評価する最良の方法です。

質問: 41

ある企業は、Microsoft Dynamics 365 Salesを使用して、Leadという名前のMicrosoft Dataverseテーブルに保存されているリードを管理しており、非標準の用語とカスタム列を使用しています。Microsoft Copilot コントロールがリードを効率的に集計できるように、リード テーブルでビジネス用語を設定する必要があります。このソリューションは、管理作業を最小限に抑えるものでなければなりません。

取引条件はどのように設定すべきですか？

- A. すべてのフィールドを1つのカスタムフィールドに結合します。
- B. フィールドの表示名をビジネス用語としてマッピングします。
- C. スキーマ名をビジネス用語として追加します。
- D. 各分野ごとに新しいビジネス用語を作成する。

正解: B ([コメントを发表する](#))

Microsoft Dynamics 365 Sales で、非標準用語やカスタム列を含むリードを効率的に要約するように Microsoft Copilot を構成するには、これらの固有のフィールドを Microsoft Copilot Studio の Sales AI 用語集内のビジネス用語にマッピングする必要があります。

注記：

フィールドの表示名をビジネス用語としてマッピングするには：

1. Copilot Studio にアクセスします。Microsoft Copilot Studio を開き、Dynamics 365 Sales インスタンスを含む環境を選択します。
2. 営業担当者を選択します: [担当者] に移動し、Dynamics で Copilot という名前の担当者を選択します。365 Sales（旧称Sales Copilot Power Virtual Agents Bot）。
3. ナレッジに移動します。ナレッジセクションで、SalesSpecificQnA ナレッジソースを選択します。
4. 用語集の項目を追加する:
用語集」タブを開いてください。

用語: 標準以外のフィールドまたはカスタムフィールドの表示名（例独自のビジネス用語）を入力してください。

Explanation: この用語がDataverseスキーマとどのように関連しているかを定義します。これにより、Copilotはカスタム列の背後にあるロジックを理解することができます。

5. 同義語の設定: 同義語セクションで、カスタムフィールドを、販売者が自然言語クエリで使用する可能性のある代替名にマッピングします (例: Custom Revenue」をマッピングして 機会収益」

6. 変更を公開: [公開] を選択してこれらのマッピングを適用すると、Copilot はリード概要を生成する際に新しく定義された用語を使用できるようになります。

参照 :

<https://learn.microsoft.com/en-us/dynamics365/sales/extend-copilot-chat>

質問: 42

ドラッグアンドドロップ問題

ある企業は、単一のエージェントと単一のプロンプトを使用して一連のタスクを完了するMicrosoft Foundryプロジェクトを保有している。

エージェントは以下の問題に遭遇します。

・不完全な結果を生成することが多い。

・特定の分野における推論に苦戦する。

・エージェントの応答時間が著しく遅い。

エージェントの全体的なパフォーマンスと精度を向上させるための解決策を提案する必要があります。

推奨事項には何を含めるべきでしょうか？回答するには、適切なアクションを正しい要件にドラッグしてください。各アクションは、1回、複数回、またはまったく使用しない場合があります。コンテンツを表示するには、ペイン間の分割バーをドラッグするか、スクロールする必要がある場合があります。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Actions

Add a grounding data source.

Add a prebuilt connector.

Move to a multi-agent architecture.

Upgrade to a larger generative AI model.

Answer Area

To improve performance:

To improve accuracy:

Action



正解:

Actions

Add a prebuilt connector.

Upgrade to a larger generative AI model.

Answer Area

To improve performance:

To improve accuracy:

Action

Move to a multi-agent architecture.

Add a grounding data source.

Explanation:

ボックス1 :マルチエージェントアーキテクチャへの移行

パフォーマンスを向上させるため

Azure AI Foundry でマルチエージェントアーキテクチャに移行することは、パフォーマンスのボトルネックを克服するための非常に効果的な戦略です。シングルエージェントシステムは、長時間実行されるタスクの処理に苦勞することが多く、高いレイテンシやタイムアウトの問題を引き起こすためです。複雑なタスクをより小さく、専門的なサブタスクに分解することで、並列処理と適切なツールの使用を通じて応答時間を改善できます。

正しくない :

* より大規模な生成型AIモデルにアップグレードする

Microsoft Foundry エージェントの応答速度が遅い場合、より大規模な生成型 AI モデルにアップグレードするという方法もありますが、処理負荷が高くなるため、状況によってはレイテンシが増加する可能性があります。そのため、パフォーマンスを向上させるには、Microsoft Foundry のプロンプト最適化、モデル選択、およびアーキテクチャ変更を組み合わせることをお勧めします。

ボックス2 : 接地データソースを追加する

精度を向上させるため

結果が不完全、ドメイン推論が不十分、レイテンシが高いといった問題を抱えるMicrosoft Foundryプロジェクトのエージェントのパフォーマンスを向上させるには、グラウンディングデータソースを追加することが非常に効果的な戦略です。グラウンディングは、大規模言語モデル (LLM) を検証済みの外部データに接続することで、応答の正確性、文脈への適合性、そして誤った応答の発生確率を低減します。

参照 :

<https://developer.microsoft.com/blog/designing-multi-agent-intelligence>

<https://techcommunity.microsoft.com/blog/azure-ai-foundry-blog/ground-your-ai-agents-with-knowledge-from-bing-search-microsoft-fabric-sharepoint/4303634>

質問: **43**

ある企業はMicrosoft Power Platform環境を運用している。

Agent1とAgent2という名前の2つのエージェントを作成する必要があります。ソリューションは以下の要件を満たす必要があります。

* Agent1はセマンティックカーネルを使用して拡張可能であり、複数のビジネスアプリケーションおよびAPIに接続する必要があります。

* Agent2 は、Microsoft Dataverse に保存されているデータに直接接続し、Microsoft Power Apps キャンバスに埋め込むことができる必要があります。

各エージェントの構築には何を使用すべきですか？回答するには、回答欄で適切なオプションを選択してください。

注 : 正解ごとに1ポイントが加算されます。

Answer Area



Agent1:

- Microsoft foundry
- Azure Logic Apps
- Copilot in Power Apps
- Microsoft Copilot Studio

Agent2:

- Microsoft Foundry
- Azure Logic Apps
- Copilot in Power Apps
- Microsoft Copilot Studio

正解:

Answer Area

Agent1:

- Microsoft foundry
- Azure Logic Apps
- Copilot in Power Apps
- Microsoft Copilot Studio

Agent2:

- Microsoft Foundry
- Azure Logic Apps
- Copilot in Power Apps
- Microsoft Copilot Studio

Explanation:

検証済みの回答 :

* エージェント1 # Microsoft Foundry

* Agent2 # Power Apps の Copilot

エージェントAIトピックスによる包括的かつ詳細な解説 :

Agent1の要件は、Semantic Kernelを使用して拡張可能であり、複数のビジネスアプリケーションおよびAPIに接続できることです。最適なソリューションはMicrosoft Foundryです。Foundryベースのエージェントは、拡張性と開発者向けのオーケストレーションを考慮して設計されており、Semantic Kernelや外部ツール/APIと連携する統合パターンも備えています。

Agent2 の要件は、Microsoft Dataverse に直接接続し、Power Apps キャンバス アプリに組み込むことです。最適なソリューションは Power Apps の Copilot です。これは Power Platform ネイティブのエクスペリエンス向けに設計されており、Dataverse を基盤とするアプリ データと自然に連携し、キャンバス アプリ内に AI エクスペリエンスを組み込むことを目的としているためです。

他の選択肢が最適ではない理由：

- * Azure Logic Apps はワークフローのオーケストレーション用であり、これらのエージェントを構築するための主要なプラットフォームではありません。
- * Microsoft Copilot Studio は対話型エージェントに優れていますが、ここでの表現は、Agent2 の場合は Power Apps ネイティブの埋め込み、Agent1 の場合は Semantic Kernel の拡張性をより直接的に指しています。

質問: 44

あなたは、社内データに基づいてビジネスレポートを生成する、カスタム生成型AIモデルの検証基準を作成しています。
モデルの出力がビジネスレポートにとって適切かつ有意義なものかどうかを評価する必要があります。
どの指標を使用すべきですか？

- A. モデルとやり取りしているアクティブユーザーの数
- B. 出力をドメイン固有のタスクに整合させる
- C. 推論中の平均システムリソース使用量
- D. モデルの学習期間

正解: ([正解を表示します](#))

社内データに基づいたビジネスレポート用のカスタム生成型AIモデルを検証するには、自動化された指標と人間中心の指標を組み合わせることで、ドメイン固有のタスクとの整合性に重点を置く必要があります。

ビジネスレポートの検証基準

- *-> タスク固有の品質評価 (TSQE): これは、成果物が特定のビジネス タスクにとって意味のあるものであるかどうかを評価するための主要な指標です。
- * 根拠と事実性 :モデルが、社内データのみに基づいて情報を提供できる能力を測定します。これにより、誤ったビジネス上の意思決定につながる可能性のある 妄想」を防ぐことができます。
- * ドメイン固有のベンチマーク :AIの出力結果を、人間の専門家が以前に作成した、データ検証済みの正確な グラウンドトゥールズ」レポートと比較します。

参照：

<https://www.prompts.ai/blog/how-to-evaluate-generative-ai-llm-outputs-with-structure-and-precision>

質問: 45

ある企業は、Microsoft Dataverseを利用したeコマースサポートポータルを運営している。
ポータル用の Microsoft Copilot Studio エージェントを設計しています。エージェントは以下の要件を満たす必要があります。
* ユーザー入力不明瞭な場合は、デフォルトのヘルプメッセージを表示する。
* ユーザーが特定の要求を行った際に、注文状況の取得など、外部プロセスを開始します。

このソリューションでは、生成型オーケストレーションが有効になります。各要件に対して、適切な機能を提案してください。
何を推奨すべきでしょうか？回答するには、適切な機能を正しい要件にドラッグしてください。各機能は、1回、複数回、またはまったく使用しない場合があります。コンテンツを表示するには、ペイン間の分割バーをドラッグするか、スクロールする必要がある場合があります。
注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Features

⋮ A tool (connector)

⋮ A skill

⋮ A trigger phrase

⋮ The Escalate topic

⋮ The Fallback topic

Answer Area

Respond with a default help message when the user input is unclear:

Initiate external processes when requested:

正解:

The screenshot shows the Microsoft Copilot Studio interface. On the left, under the 'Features' section, there are five options: 'A tool (connector)', 'A skill', 'A trigger phrase', 'The Escalate topic', and 'The Fallback topic'. On the right, under the 'Answer Area' section, there are two input fields. The first field, labeled 'Respond with a default help message when the user input is unclear:', contains the text 'The Fallback topic'. The second field, labeled 'Initiate external processes when requested:', contains the text 'A tool (connector)'.

Explanation:

The screenshot shows the Microsoft Copilot Studio interface. On the left, under the 'Features' section, there are five options: 'A tool (connector)', 'A skill', 'A trigger phrase', 'The Escalate topic', and 'The Fallback topic'. On the right, under the 'Answer Area' section, there are two input fields. The first field, labeled 'Respond with a default help message when the user input is unclear:', contains the text 'The Fallback topic'. The second field, labeled 'Initiate external processes when requested:', contains the text 'A tool (connector)'.

Microsoft Copilot Studioでは、特に生成型オーケストレーションが有効になっている場合、エージェントはユーザーの意図に基づいて最も適切な機能を選択します。

最初の要件である、ユーザーの入力が曖昧、不明瞭、または既知のアクションに明確に対応しない場合、適切な機能はフォールバックトピックです。このトピックは、コパイロットがユーザーの意図を確実に判断できない状況に対処するために特別に設計されています。ヘルプメッセージ、説明要求、ユーザーが次に何を質問できるかについてのガイダンスなど、安全なデフォルトの応答を提供します。

2つ目の要件として、ユーザーが外部システムとの連携を必要とする操作（注文状況の確認など）を要求する場合、適切な機能はツール（コネクタ）です。Copilot Studioでは、ツールは

コネクタは、外部サービス、API、ワークフロー、またはビジネスシステムを呼び出すために使用されます。このポータルはMicrosoft Dataverseを使用しており、シナリオではユーザーの要求に基づいて外部プロセスを開始するため、コネクタを基盤としたツールが適切な設計選択となります。

他の選択肢がここでは正しくない理由：

トリガーフレーズは、発話とトピックを照合するために使用されますが、それ自体はデフォルトの不明瞭な入力の処理を提供したり、外部のビジネスプロセスを実行したりするものではありません。

* この文脈ではスキルは最適な回答ではありません。Copilot Studio は外部操作にツール/コネクタ/アクションを一般的に使用します。

* エスカレーショントピックは、デフォルトでは不明瞭な入力に対してではなく、人間または別のエスカレーションパスに引き継ぐ場合に使用されます。

質問: 46

ある企業は、開発段階の異なる複数のAI関連プロジェクトを保有している。

すべての取り組みにおけるAI投資収益率（ROAI）を評価するための体系的なアプローチを提案する必要があります。そのソリューションは、短期的な成果と長期的な価値、そして戦略的なイノベーションとのバランスを取るものでなければなりません。

推奨状には何を含めるべきでしょうか？

- A. 簡単な費用対効果分析
- B. ホライズンベースのフレームワーク
- C. 内部収益率（IRR）関数
- D. 優先順位付けグリッド

正解: B (コメントを发表する)

このシナリオでは、AI 投資のリターン (ROAI) を評価するには、ホライズン ベースのフレームワークが最適です。優先順位グリッドは、即時の戦術的選択 (たとえば、労力とコストの比較) には最適ですが、

影響)を考慮したホライズンベースのフレームワークは、多様な時間軸のバランスを取るように特別に設計されており、包括的なマイクロソフトのAIポートフォリオに必要な長期的な戦略的価値と変革的価値と、短期的な効率性の向上をマッピングします。

ホライズンベースのフレームワークが優れている理由

このアプローチでは、AIイニシアチブを3つの異なる「ホライズン」に分類することで、開発ライフサイクル全体にわたってさまざまな種類の価値を測定できます。

ホライズン1 :コアオペレーション（即時投資回収）

迅速な成果を得るために既存の機能を拡張することに重点を置いており、例えばMicrosoft Copilotを使用して定型的なコーディング作業やITサポートを自動化するなどといった例が挙げられます。

ホライズン2 :隣接分野における機会（中期的価値）

既存のインフラを基盤としたエージェント型プラットフォームやAI駆動型専門ツールの開発など、コア事業に関連する新たな分野への進出を通じて成長を目指す。

ホライズン3 :変革的イノベーション（長期戦略）

短期的な収益は不確実かもしれないが、戦略的な面で大きなメリットやビジネスモデルの再構築をもたらす可能性のある、「未来志向型」のイノベーションに投資する。

推奨事項 Microsoft AI成熟度モデルを使用して現状を把握し、次にホライズンベースフレームワークを適用してROAI評価を構築してください。これにより、「容易に達成できる」効率化プロジェクトばかりに注力して、長期的なイノベーションを阻害することを防ぐことができます。

参照：

<https://businessengineer.ai/p/microsofts-three-horizon-ai-architecture>

有効的な**AB-100**問題集はJPNTTest.com提供され、**AB-100**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**AB-100**試験問題集を提供します。JPNTTest.com AB-100試験問題集はもう更新されました。ここで**AB-100**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/AB-100-mondaishu> 147問、30%**ディスカウント**、特別な割引コード：**JPNshiken**」

質問: 47

あなたは、カスタムの Microsoft Foundry モデルを使用して応答を生成する Microsoft Copilot Studio エージェントを設計しています。ユーザーとのやり取り中に、エージェントがカスタム モデルに安全に接続して呼び出せるようにする必要があります。設計には何を含めるべきでしょうか？

- A. エージェントをクラシックオーケストレーションを使用するように設定します。
- B. カスタムエンジンエージェントを作成する
- C. Microsoft Foundry モデルを Copilot Studio のスキルとして追加します。
- D. エージェントでMicrosoft Foundryへの接続を作成します

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 48

あなたはMicrosoft Copilot Studioを使用して、ローコードAIビジネスソリューションを設計しています。

このソリューションには、ボタンのクリック、テキストの入力、画面からの情報抽出など、サードパーティ製アプリやウェブサイト上でのユーザー操作をシミュレートすることでタスクを自動化するエージェントが含まれている必要があります。

エージェントに何を含めるべきかを推奨する必要があります。

何をおすすめしますか？

- A. Copilot Studioにおける自然言語理解+ (NLU+)モデル
- B. 副操縦士のスキル
- C. Copilot Studioでのコンピュータの使用
- D. モデルコンテキストプロトコル (MCP)

正解: C ([コメントを发表する](#))

この要件は非常に具体的です。エージェントは、サードパーティのアプリやウェブサイト全体でユーザーとのやり取りをシミュレートすることでタスクを自動化する必要があります。これには以下が含まれます。

- * ボタンをクリックする
- * テキストを入力中
- * 画面から情報を抽出する

まさにそれが、Copilot Studioのコンピュータ利用機能の設計目的です。

Cが正解である理由：

- * コンピュータの使用により、エージェントは人間のような方法でユーザーインターフェースと対話できるようになります。
- * これは、エージェントが直接APIを公開していない可能性のあるアプリやWebサイト間で動作する必要があるシナリオを想定しています。
- * AIが質問に答えるだけでなく、画面上でアクションを実行するローコードビジネスオートメーションをサポートします。

他の選択肢が正しくない理由：

- * A. Copilot Studio の自然言語理解+ (NLU+) モデルは、UI 操作の自動化ではなく、ユーザーの意図を理解するのに役立ちます。
- * B. コパイロットスキル スキルは能力を拡張するものですが、この質問は特にアプリやウェブサイト間で画面上の操作をシミュレートすることについてです。
- * D. モデルコンテキストプロトコル (MCP) MCPは、モデルと外部システム間のツールおよびコンテキストの標準化された統合のためのものです。直接的なUIシミュレーションの主要な機能ではありません。

質問: 49

ある企業は、Microsoft Copilot StudioエージェントとMicrosoft Foundryエージェントを含むAIソリューションを導入する計画だ。このソリューションはソースコードリポジトリに保存される予定である。

各エージェントに対して、適切な導入方法を推奨する必要があります。ソリューションは以下の要件を満たす必要があります。

本番環境へのデプロイ前に、必ずテスト環境を使用する必要があります。

生産は開発およびテストから切り離して行う必要がある。

導入は再現可能で、完全に自動化されている必要がある。

その解決策は、手動による介入を必要としないものでなければならない。

各エージェントに対して、どの展開方法を推奨しますか？回答するには、回答欄で適切なオプションを選択してください。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Copilot Studio:

Export from the source code repository and import to the target environment.
Use a Bicep file.
Use a Microsoft Power Platform deployment pipeline.

Microsoft Foundry:

Use a Bicep file.
Use a Microsoft Power Platform deployment pipeline.
Use an Azure DevOps pipeline.

正解:

 Copilot Studio:

Export from the source code repository and import to the target environment.
Use a Bicep file.
Use a Microsoft Power Platform deployment pipeline.

Microsoft Foundry:

Use a Bicep file.
Use a Microsoft Power Platform deployment pipeline.
Use an Azure DevOps pipeline.

Explanation:

Copilot Studio # Microsoft Power Platform のデプロイ パイプラインを使用する。Microsoft Foundry # Azure DevOps パイプラインを使用する。

質問: 50

ある企業は、買掛金管理と顧客債権回収にMicrosoft Dynamics 365 Financeを使用しています。あなたは、以下の要件を満たすAIファイナンスプロセスを設計しています。

* AIを活用した詳細情報を提供し、スタッフが未払いの仕入先請求書や未払い残高を特定するのを支援します。

* スタッフが未払い請求書や支払い履歴を確認するのにかかる時間を短縮するのに役立ちます。設計に含める Microsoft Copilot の機能を推奨する必要があります。

それぞれの要件に対して、どのような推奨事項を提示すべきでしょうか？回答欄で適切な選択肢を選んでください。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Answer Area

Help identify vendor overdue invoices and outstanding balances:

Agent management
AI Summaries with Copilot
The Account Reconciliation agent
The supplier Communication agent

Reduce how long it takes to review overdue invoices and payment history:

Analyze demand plans with Copilot
Collections coordinator summary
The Account Reconciliation agent
The supplier Communication agent

正解:

Answer Area

Help identify vendor overdue invoices and outstanding balances:

Agent management
AI Summaries with Copilot
The Account Reconciliation agent
The supplier Communication agent

Reduce how long it takes to review overdue invoices and payment history:

Analyze demand plans with Copilot
Collections coordinator summary
The Account Reconciliation agent
The supplier Communication agent

Explanation:

ベンダーの未払い請求書と未払い残高 # Copilot を使用した AI サマリー 未払い請求書と支払い履歴をより迅速に確認 # 回収コーディネーター サマリー この質問は、Dynamics 365 Finance 内の 2 つの異なる財務プロセス ニーズを組み合わせたものです。

最初の要件は、買掛金／仕入先管理の分野です。スタッフは、AIを活用した詳細情報に基づいて、支払期限を過ぎた仕入先請求書や未払い残高を迅速に把握する必要があります。最適なソリューションは、CopilotのAIサマリーです。この機能は、簡潔で状況に応じたサマリーを表示することで、ユーザーがすべての取引を手動で開いて確認することなく、財務記録をより迅速に理解できるように設計されているからです。

2つ目の要件は、顧客債権回収業務に関するものです。担当者は、延滞請求書や支払履歴の確認に費やす時間を短縮する必要があります。この要件に最適なのは「債権回収コーディネーター概要」です。これは債権回収業務に特化しており、顧客の債権回収状況、請求書の経過日数、支払関連情報をユーザーが迅速に確認できるからです。

他の選択肢が適さない理由：

* エージェント管理は管理業務であり、請求書や残高に関する情報を提供する機能ではありません。

* 勘定照合担当者は、これらの特定の買掛金および債権回収レビューのニーズよりも、照合業務に重点を置いています。

* サプライヤーとのコミュニケーション担当者は、主に未払い請求書や残高の状況を要約して内部レビューに提供するのではなく、サプライヤーとのやり取りやコミュニケーションに重点を置いています。

* Copilot を使用した需要計画の分析は、未払い請求書や支払い履歴の確認とは関係ありません。

質問: 51

ある企業は、顧客からの新たなフィードバックが得られるたびに頻繁なアップデートが必要となる、高度に調整されたMicrosoft Foundryモデルを使用している。

以下の要件を満たすアプリケーションライフサイクル管理 (ALM) プロセスを設計する必要があります。

* データの変更は追跡し、バージョン管理する必要があります。

* モデルは、承認されたトレーニングデータを使用して、一貫して再トレーニングする必要があります。

デザインに含めるべき2つのアクションは何ですか？

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

A. ストレージの場所を微調整ジョブに関連付けます。

B. コンテンツフィルタを作成します。

C. トレーニングデータをAzure Filesに保存します。

D. トレーニングデータをMicrosoft Foundryデータファイルにアップロードします。

E. バージョン管理が有効になっている Azure Blob Storage にトレーニングデータを保存します。

正解: D,E ([コメントを發表する](#))

Agentic AI Business Solutions のトピックからの包括的かつ詳細な説明 Microsoft Foundry モデルを微調整するための ALM プロセスを設計するには、次の 2 つの重要な機能が必要です。

* バージョン管理されたトレーニングデータ

* 一貫性があり、統制された再訓練のためのパイプライン

最新のエージェント型AIライフサイクル、データガバナンス、およびモデル再トレーニングのベストプラクティスを用いて、その論理を詳しく見ていきましょう。

E) バージョン管理が有効になっている Azure Blob Storage にトレーニングデータを保存する - # 正解 これは要件を直接満たします:

「データの変更は追跡し、バージョン管理する必要がある。」

バージョン管理機能を備えた Azure Blob Storage は、以下の機能を提供します。

* すべてのトレーニングデータセットの自動バージョン履歴

* 監査およびロールバック用の不変スナップショット

承認済みデータに対するガバナンス管理

* モデル再トレーニングのためのCI/CDパイプラインとの統合

エージェント型AIのライフサイクルにおいて、データバージョン管理が必須となる理由は以下のとおりです。

* トレーニングデータは頻繁に更新されます

再訓練は再現可能でなければならない

* 規制監査ではトレーサビリティが求められる

* モデルのずれを監視する必要がある

バージョン管理機能を備えたBlob Storageは、企業向けAI ALMにおいてMicrosoftが推奨するアプローチです。

D). トレーニングデータを Microsoft Foundry データ ファイルにアップロードします - # Foundry の微調整ジョブを正しく行うには、トレーニング データが Foundry データ ファイルに保存されている必要があります。

これにより、以下のことが保証されます。

* 微調整ジョブは常に承認済みのデータセットを使用します

* モデルの再トレーニングパイプラインは一貫性があります

データは検証され、正しくフォーマットされています。

* トレーニングジョブは、安定した管理されたデータソースを参照します。

これは以下の要件に合致しています。

モデルは、承認されたトレーニングデータを使用して、一貫して再トレーニングされなければならない。」エージェント型AIシステムでは、トレーニングパイプラインは決定論的でなければならない。

データをFoundryデータファイルにアップロードすることで、微調整ジョブが常に正しいデータセットバージョンを使用することが保証されます。

他の選択肢が正しくない理由

A) ストレージの場所を微調整ジョブに関連付ける - 不十分 これだけでは以下は提供されません:

- * データバージョン管理
- ガバナンス

* 変更履歴の追跡

これは単にジョブの場所を指定するだけであり、管理されたALMプロセスではありません。

B) コンテンツフィルタを作成する - ALMやトレーニングデータとは関係ありません

コンテンツフィルターは安全のためにあるのであって、以下の目的のためではありません。

- * バージョン管理
- * データガバナンス
- * 再訓練の一貫性

これらはALMの要件を満たすのに役立ちません。

C) トレーニングデータをAzure Filesに保存する - 不適切

Azure Filesでは以下の機能は提供されません。

- * 組み込みバージョン管理
- * 不変のスナップショット
- * 機械学習パイプラインのためのALM統合

AIのトレーニングデータには、Blob Storageが最適な選択肢です。

最終解答 :D、E

* D. トレーニングデータをMicrosoft Foundryデータファイルにアップロードする

* E. バージョン管理が有効になっている Azure Blob Storage にトレーニングデータを保存します。これら 2 つのアクションを組み合わせることで、ファインチューニングされた Foundry モデル用の、統制され、バージョン管理され、再現可能な ALM パイプラインが作成されます。

質問: 52

経営幹部がそれぞれの職務を遂行する上で役立つCopilot Studioの分析指標として、どれを推奨すべきでしょうか？回答するには、適切な指標を該当する経営幹部にドラッグしてください。各指標は、1回、複数回、または全く使用しない場合があります。コンテンツを表示するには、ペイン間の分割バーをドラッグするか、スクロールする必要がある場合があります。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Answer Area

Metrics

Effectiveness

Satisfaction

Tool use

Use

Answer Area



CFO concerns about Copilot Studio credit usage:

CTO concerns about poor feedback on AI agent responses:

正解:

Answer Area

Metrics

Effectiveness

Satisfaction

Tool use

Use

Answer Area

CFO concerns about Copilot Studio credit usage: Effectiveness

CTO concerns about poor feedback on AI agent responses: Satisfaction



Explanation:

検証済みの回答:

* CFOはCopile Studioのクレジット使用について懸念している # 有効性

* CTOはAIエージェントの応答に対するフィードバックの悪さを懸念している # 満足度 Agentic AI Topicsからの包括的かつ詳細な説明:

適切なマッピングは、各経営幹部がCopilot Studioの分析機能で何を測定しようとしているかに基づいて決定されます。

CFOにとっての懸念事項は、解決済みの会話と比較して、途中で放棄されたやり取りの数と、Copilot Studioのクレジットが効率的に使用されているかどうかです。これは有効性に関する指標と合致しています。なぜなら、有効性指標は、やり取りが正常に解決されたか、完了前に放棄されたかといった会話の結果に焦点を当てているからです。

CTOにとっての懸念は、特にAIエージェントの応答品質に関するユーザーからのフィードバックです。これは満足度に相当します。なぜなら、満足度指標は、インタラクションの品質に関するユーザーの感情やフィードバックを捉えるからです。

他の指標が最適ではない理由:

* 利用状況は、採用率とインタラクション量に大きく左右される。

* ツールの使用状況は、ツールやアクションがどれくらいの頻度で呼び出されたかに焦点を当てており、放棄か解決か、あるいはフィードバックの質には焦点を当てていません。

質問: 53

あなたは、以下のコンポーネントを含むAIビジネスソリューションを設計しています。

* Microsoft Power Automate ワークフロー

* Microsoft Copilot Studio エージェント

* Microsoft Dataverse データベース

* Microsoft Power Apps アプリ

アプリケーションライフサイクル管理 (ALM) プロセスの一環として、コンポーネントをパッケージ化し、グループとして他の環境にデプロイできるようにする予定です。バージョン管理、依存関係、およびデプロイをサポートするソリューションを推奨する必要があります。推奨事項には何を含めるべきでしょうか？

- A. Azure DevOps
- B. GitHub Actions
- C. マイクロソフト Power Platform ソリューション

正解: [\(正解を表示します\)](#)

質問: 54
ホットスポットに関する質問

複数の事業部門で使用する共有プロンプトライブラリを設計する必要があります。ソリューションは以下の要件を満たす必要があります。

- 再活用可能なフォーマットを用いて、一貫性のあるAI応答を保証する。
- ガバナンスとバージョン管理をサポートする。
- 管理業務の手間を最小限に抑える。
- 継続的なコストを最小限に抑える。

それぞれの要件に対して、どのような推奨事項を提示すべきでしょうか？回答欄で適切な選択肢を選んでください。

注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Answer Area

Ensure consistent AI responses:

Microsoft

Delegate department-specific prompt templates.

Define standardized prompt templates.

Maintain a prompt history.

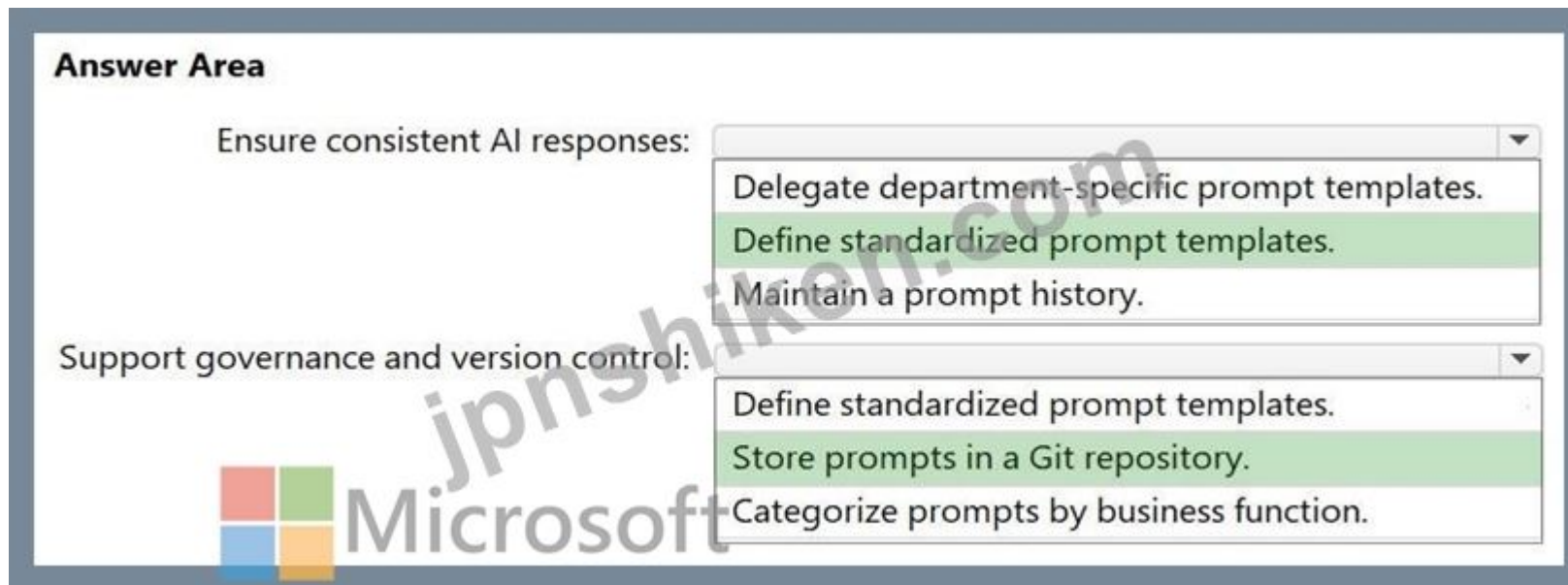
Support governance and version control:

Define standardized prompt templates.

Store prompts in a Git repository.

Categorize prompts by business function.

正解:



Explanation:

ボックス1：標準化されたプロンプトテンプレートを定義する

再利用可能なフォーマットを使用して、一貫性のあるAI応答を確保する。

複数の事業部門間で一貫したAI応答を確保するためには、共有プロンプトライブラリは、中央集権的なガバナンスと部門固有の柔軟性のバランスが取れた、標準化されたモジュール型テンプレートを基盤として構築する必要があります。

ボックス2：プロンプトをGitリポジトリに保存する

ガバナンスとバージョン管理をサポートする。

AIプロンプトをGitリポジトリに保存することで、プロンプトをソースコードと同様の責任とライフサイクル管理を備えた「第一級の成果物」として扱うことができます。複数の事業部門にサービスを提供するエンタープライズソリューションの場合、このアプローチはガバナンス、コラボレーション、および拡張性に必要な構造を提供します。

1. 事業部門向けリポジトリ組織

2. ガバナンスとバージョン管理のワークフロー

ブランチ戦略：メインブランチの安定性を確保するため、各実験または新しいユースケースごとに専用のブランチを使用します（例feature/marketing-seo-v2）。

プルリクエスト（PR）ピアレビューを可能にするため、すべての変更に対してプルリクエストの提出を義務付けます。プルリクエストには、変更内容の説明、関連する課題、およびテスト結果を含める必要があります。

セマンティックバージョンニング：重要なアップデートをマークするためにタグ（例v1.0.1）を適用することで、各事業部門がアプリケーションを特定の安定したプロンプトバージョンに固定できるようにします。

監査可能性：Gitは、誰がプロンプトを変更したか、何が変更されたか、そしてそれがいつ発生したかという完全な履歴記録を保持します。

参照：

https://www.leeboonstra.dev/prompt-engineering/prompt_engineering_guide6

<https://launchdarkly.com/blog/prompt-versioning-and-management>

質問: 55

ある企業は、Microsoft Dynamics 365の財務および業務管理アプリを使用しています。

同社は、Microsoft Copilotのアプリ内ヘルプとガイダンスを活用して、社内業務プロセスに対する回答を生成する予定だ。

ビジネスプロセスに関する追加の知識源が必要です。ただし、このソリューションは、財務および運用アプリのCopilotエージェントに新しいトピックを追加してはなりません。

どの情報源を追加すべきでしょうか？

A. マイクロソフトデータベース

- B. 公開ウェブサイト
- C. Azure AI Search
- D. ファイルアップロード

正解: D ([コメントを发表する](#))

Agentic AI Business Solutionsによる包括的かつ詳細な解説トピック：

正解はDです。ファイルのアップロード。

このシナリオでは、企業は Dynamics 365 の財務および運用アプリで Microsoft Copilot のアプリ内ヘルプとガイダンスを使用しており、新しいトピックを作成せずに Copilot で利用できるビジネス プロセスの知識を拡張したいと考えています。

その要件が重要なのは、このソリューションがトピックの作成や対話設計を求めているのではなく、Copilotが応答生成に直接利用できる追加の知識源を求めているからです。

ファイルアップロードは最適な選択肢です。この方法であれば、新しい会話トピックを作成することなく、業務プロセスに関するドキュメントを知識コンテンツとして直接Copilotに提供し、参照させることができます。これは、既にドキュメント形式で存在する社内プロセスガイド、標準作業手順書（SOP）、ポリシー文書、運用手順書などに特に有効です。

Dが正解である理由

ファイルアップロードが適切なのは、次のような場合です。

- * 知識は既に文書として存在している
- * Copilotにそのコンテンツを直接使用させたい場合
- * 個別のトピックを作成したくない
- * この情報源は、社内業務プロセスのガイダンスを目的としています

AIビジネスソリューションの観点から見ると、これは導入を迅速化する強力なパターンです。組織は、すべての内部プロセスを構造化された対話ツリーとしてモデル化する代わりに、アップロードされたドキュメントに基づいてCopilotを構築し、その知識源から回答を生成させることができます。

これは、企業におけるAI設計の一般的な原則です。

* 会話の流れを制御したり、タスクを調整したりする必要がある場合は、トピックを使用してください。

* 既存のドキュメントから根拠のある回答が必要な場合は、知識ソースを使用してください。要件には新しいトピックを追加してはならないと明記されているため、ファイルアップロードなどの知識ソースが最適です。

他の選択肢が間違っている理由

A) マイクロソフトデータバース

Dataverseは構造化されたビジネスデータやトランザクション記録に最適ですが、今回の質問はアプリ内ヘルプやガイダンスにビジネスプロセスの知識ソースを追加することについてです。これは、テーブルベースの運用データよりもドキュメントベースの知識を重視する方向性を示しています。

B) 公開ウェブサイト

Copilotのシナリオによっては、公開ウェブサイトが知識源となる場合もありますが、ここでは財務および運用アプリにおける社内業務プロセスのガイダンスが求められています。社内プロセスに関するコンテンツは、公開ウェブサイトよりもアップロードされたファイルを通じて提供の方が適切です。

C). Azure AI Search

Azure AI Search は、より高度なカスタム検索アーキテクチャでは役立ちますが、このシナリオに対する直接的な組み込みソリューションではありません。この質問は、トピックを作成せずにサポートされているナレッジソースを追加する方法を求めており、ファイルアップロードの方がよりシンプルで直接的な解決策となります。

専門家の推論

質問の中で決定的なフレーズは次のとおりです。

* 新しいトピックを追加してはいけません」

つまり、解決策は会話型の作成ではなく、知識の蓄積に基づくものでなければならないということです。利用可能なオプションの中で、このシナリオにおいてCopilotに社内業務プロセスの知識を提供する最も直接的でサポートされている方法は、ファイルアップロードです。

注 :このセクションには、同じシナリオと問題に関する複数の質問セットが含まれています。各質問には、問題に対する固有の解決策が提示されています。提示された解決策が、提示された目標を満たしているかどうかを判断する必要があります。セット内の複数の解決策が問題を解決できる場合もあります。また、セット内のどの解決策も問題を解決できない場合もあります。このセクションの質問に回答すると、前のセクションに戻ることはできません。そのため、これらの質問は復習画面には表示されません。

ある企業はMicrosoft 365とDynamics 365を使用しています。

メールのスレッドを自動的に要約し、Microsoft Outlookで返信候補を生成し、関連する顧客関係管理 (CRM) データを含む会議準備の要約を提供するソリューションを提案する必要があります。

解決策 :Microsoft 365 Copilot for Sales をお勧めします。

これは目標を達成していると言えるでしょうか？

A. はい

B. いいえ

正解: ([正解を表示します](#))

正しい :

* Microsoft 365 Copilot for Sales をお勧めします。

正しくない :

* 従来のMicrosoft Dataverseワークフローを推奨します。

* Microsoft 365 Copilot エージェント テンプレートを推奨します。

注記 :

このシナリオでは、Microsoft 365 Copilot for Sales が、生産性向上ツールと CRM データ間の主要な橋渡し役として機能します。Microsoft Outlook および Teams に直接統合され、Dynamics 365 Sales または Salesforce からリアルタイムのインサイトを提供します。

この特定のワークフローにおける主な機能は以下のとおりです。

自動メール要約 :CopilotはOutlookの長いメールスレッドをスキャンし、重要なポイント、ハイライト、およびBANT（予算 権限、ニーズ、タイムライン）データを抽出します。送信者がCRMに登録されている外部連絡先の場合、要約には関連するアカウントおよび商談データが自動的に追加されます。

推奨メール返信 : 顧客からのメールに返信する際、Copilotは会話の内容と既存のCRMデータに基づいて下書きを生成します。事前定義された返信カテゴリ（例 :問い合わせへの返信」、提案の提示」）やカスタムプロンプトを使用して、下書きに具体的な商談の詳細を含めることができます。

会議準備概要: 予定されている会議の前に、Copilot for Sales は

TeamsまたはOutlookの「準備カード」。この概要には以下が含まれます。

- CRMデータ : 商談とアカウントの属性を照合しました。

- 背景情報 : 過去のメールのやり取りの要約と、直近の3件の出品者からのメモ。

- 戦略的洞察 : 過去のやり取りから得られた主要なリスク、フォローアップ措置、および議論のポイント。

参照 :

<https://msdynamicsworld.com/blog/microsoft-copilot-sales-close-deals-faster-ai>

質問: 57

事例研究1 - ファブリカム社

背景

ファブリカム社は、グローバルな消費財企業であり、インフラ全体をマイクロソフトのクラウドに移行するデジタル変革イニシアチブを進めています。このクラウド移行の重要な要素として、同社はMicrosoft Dynamics 365 Salesを導入し、企業間取引 (B2B) 営業チームが現在使用しているオンプレミスの独自技術から脱却します。

クラウド移行の一環として、FabrikamはビジネスソリューションにおいてAIファーストのアプローチを採用し、可能な限りAIソリューションを導入して業務効率化を図ります。

問題提起

Fabrikamのインフラは現在、様々なオンプレミスシステムに依存しており、営業担当者は顧客とのやり取りの際に、物理キーボードを備えた社内コンピュータを使用して業務情報にアクセスする必要があります。これらのシステムはキーボード入力に依存しているため、携帯電話はこれらの用途には使用できません。結果として、営業担当者は顧客対応に集中する代わりに、複数の異なるシステムやファイルサーバーでデータを検索するためにキーボード操作に多くの時間を費やしています。これは顧客体験に悪影響を与えています。

Fabrikamの関係者は、ユーザーがAIの導入に躊躇するのではないかと懸念しています。AIイニシアチブが採用されなければ、コスト削減効果は決して実現しません。さらに、今後のAIイニシアチブへの資金提供は、AIの導入率が月ごとに増加していることを示すかどうかにかかっています。営業チーム向けのAIエージェント導入はFabrikamにとって初めての試みとなるため、エージェントの迅速な導入が最優先事項です。

計画されている取り組み

一般的な

Fabrikamの経営陣は、効率性、顧客エンゲージメント、そして責任あるAI導入を促進するため、AIを活用したプロジェクトを優先的に進めています。現在のアプリケーションインフラはオンプレミス環境にあり、これらの技術導入をサポートするためにはクラウドへの移行が必要です。

インフラストラクチャ移行

Fabrikamは、現在のオンプレミス型インフラストラクチャから完全にクラウドベースのトポロジへの移行を計画しています。これには、ユーザー認証、セキュリティフレームワーク、そして何よりもエンドユーザーによるサービスの導入が含まれます。

さまざまなシステムからのすべてのデータは、単一のデータソース、つまり共通のデータモデルに統合されます。このデータモデルは、Microsoft Dataverse環境を営業チームにとっての唯一の信頼できる情報源（SOT）として使用します。

販売サイクルの実現

ファブリカム社は、会社の目標達成のため、販売サイクルを強化するために以下の戦略を実施する予定です。

- ローコード開発を使用して、データバースをその中核コンポーネントとする。
- 営業マネージャーが未回答の通信にアクセスできることを確認してください

見込み客を評価し、必要に応じて介入する。

- 以前の独自ソフトウェアを Dynamics 365 Sales に置き換えて

販売サイクルと顧客とのやり取りを追跡する。

- 営業担当者に Dynamics 365 Sales を使用して追跡させる

オープンな機会に関するやり取りを行い、フォローアップの連絡を送信します。

見込み客へ。

- 営業担当者にハンズフリーヘッドセットを使用して顧客とやり取りさせる

AIエージェントは、内部ポリシーや顧客に関する質問がある場合に

データ。

要件

インフラストラクチャ移行

Fabrikamは、以下のインフラストラクチャ移行要件を特定しました。

- 今後のすべてのインフラストラクチャワークロードにはAzureを使用する必要があります。
- 会社は、マイクロソフトが推奨する方法論に従わなければならない。

インフラストラクチャのクラウドへの移行。

- 作成されたAIエージェントはすべて、投資収益率（ROI）を確保する必要がある。

そのソリューションが会社のコスト削減につながるよう計算されている。

販売サイクルの実現

Fabrikamは、販売サイクルの実現に関して以下の要件を特定しました。

- 最終的なAIエージェントは、Microsoftの推奨事項に従う必要があります。
 - 対話型のユーザーエクスペリエンス。
 - AIエージェントが
準拠したソリューションを実現するために、マイクロソフトの導入推奨事項に従います。
 - 最初に作成された AI エージェントの詳細なテレメトリをログに記録する必要があります。
 - 初期AIエージェントのトラブルシューティングと最適化を支援します
採用プロセス。
 - 予期せぬAIエージェントの行動は、ライブ配信へのエスカレーションで終了しなければならない
担当者。たとえば、営業担当者は
2回失敗した後もエージェントが質問に答えられない場合、担当者が対応します。
 - 試み。
 - 現在のプロセスから切り替えた場合の投資収益率 (ROI)
今後のプロセスには、関係者の承認が必要となる。
 - 営業チームは、Dynamics 365 Sales を使用して、
見込み客を現在よりも迅速かつ効率的に把握する。
 - 営業マネージャーは、AIエージェントの導入状況を主要顧客に報告する必要があります
ファブリカムのステークホルダーに対し、毎月情報を提供する。
- AIエージェントを介して共有されるユーザーIDや名前などの機密情報は、将来の監査のために追跡する必要があります。
- ホットスポットに関する質問
- 販売サイクルの実現に向けたAIエージェントの要件を満たすには、どのフレームワークを使用すべきでしょうか？回答するには、回答欄で適切なオプションを選択してください。
- 注：正解ごとに1ポイントが加算されます。

Answer Area

For Microsoft Copilot Studio best practices:

the ALM Accelerator for Microsoft Power Platform
Microsoft Cloud Adoption Framework for Azure
Microsoft Power Platform Well-Architected framework
Success by Design

For conversational user experiences:

the ALM Accelerator for Microsoft Power Platform
Microsoft Cloud Adoption Framework for Azure
Microsoft Power Platform Well-Architected framework
Success by Design

正解:

Answer Area

For Microsoft Copilot Studio best practices:

- the ALM Accelerator for Microsoft Power Platform
- Microsoft Cloud Adoption Framework for Azure
- Microsoft Power Platform Well-Architected framework
- Success by Design

For conversational user experiences:

- the ALM Accelerator for Microsoft Power Platform
- Microsoft Cloud Adoption Framework for Azure
- Microsoft Power Platform Well-Architected framework
- Success by Design

Explanation:

ボックス1 :Microsoft Power Platform向けALMアクセラレーター

Microsoft Copilot Studio のベストプラクティスについては、こちらをご覧ください。

Microsoft Power Platform 用 ALM アクセラレーターを使用することは、Dataverse を利用するローコード AI エージェント (Copilot Studio) のライフサイクル管理において推奨されるアプローチです。これにより、AI エージェントのソース管理、バージョン管理、および自動デプロイが可能になり、Microsoft のベストプラクティスに準拠した運用が保証されます。

ボックス2 :Microsoft Power PlatformのWell-Architectedフレームワーク

会話型ユーザーエクスペリエンスのために

Microsoft Power Platform Well-Architectedフレームワークを活用し、コアデータコンポーネントとしてDataverseを用いたローコードAIエージェント (Copilot Studioで構築)を開発することで、ソリューションのセキュリティと信頼性を確保し、高品質な対話型ユーザーエクスペリエンス (CUX)を実現します。このフレームワークは、エージェントをMicrosoftの責任あるAI、効率性、ユーザー満足度に関するベストプラクティスに適合させるのに役立ちます。

シナリオ :

販売サイクルの実現

Fabrikamは、販売サイクルの実現に関して以下の要件を特定しました。

*-> 最終的なAIエージェントは、対話型ユーザーエクスペリエンスに関するマイクロソフトの推奨事項に従う必要があります。

販売サイクルの実現

ファブリカムは、会社の目標達成のため、販売サイクルを強化するために以下の戦略を実施する予定です。

*-> ローコード開発を使用して、Dataverseをコアコンポーネントとする単一のAIエージェントを作成します。

参照 :

<https://learn.microsoft.com/en-us/power-platform/guidance/alm-accelerator/overview>

<https://learn.microsoft.com/en-us/training/modules/adopt-ai-agent-best-practice>

質問: 58

事例研究1 - ファブリカム社

背景

ファブリカム社は、グローバルな消費財企業であり、インフラ全体をマイクロソフトのクラウドに移行するデジタル変革イニシアチブを進めています。このクラウド移行の重要な要素として、同社は Microsoft Dynamics 365 Salesを導入し、企業間取引 (B2B) 営業チームが現在使用しているオンプレミスの独自技術から脱却します。

クラウド移行の一環として、FabrikamはビジネスソリューションにおいてAIファーストのアプローチを採用し、可能な限りAIソリューションを導入して業務効率化を図ります。

問題提起

Fabrikamのインフラは現在、様々なオンプレミスシステムに依存しており、営業担当者は顧客とのやり取りの際に、物理キーボードを備えた社内コンピュータを使用して業務情報にアクセスする必要があります。これらのシステムはキーボード入力に依存しているため、携帯電話はこれらの用途には使用できません。結果として、営業担当者は顧客対応に集中する代わりに、複数の異なるシステムやファイルサーバーでデータを検索するためにキーボード操作に多くの時間を費やしています。これは顧客体験に悪影響を与えています。

Fabrikamの関係者は、ユーザーがAIの導入に躊躇するのではないかと懸念しています。AIイニシアチブが採用されなければ、コスト削減効果は決して実現しません。さらに、今後のAIイニシアチブへの資金提供は、AIの導入率が月ごとに増加していることを示すかどうかにかかっています。営業チーム向けのAIエージェント導入はFabrikamにとって初めての試みとなるため、エージェントの迅速な導入が最優先事項です。

計画されている取り組み

一般的な

Fabrikamの経営陣は、効率性、顧客エンゲージメント、そして責任あるAI導入を促進するため、AIを活用したプロジェクトを優先的に進めています。現在のアプリケーションインフラはオンプレミス環境にあり、これらの技術導入をサポートするためにはクラウドへの移行が必要です。

インフラストラクチャ移行

Fabrikamは、現在のオンプレミス型インフラストラクチャから完全にクラウドベースのトポロジーへの移行を計画しています。これには、ユーザー認証、セキュリティフレームワーク、そして何よりもエンドユーザーによるサービスの導入が含まれます。

さまざまなシステムからのすべてのデータは、単一のデータソース、つまり共通のデータモデルに統合されます。このデータモデルは、Microsoft Dataverse環境を営業チームにとっての唯一の信頼できる情報源 (SSOT) として使用します。

販売サイクルの実現

ファブリカム社は、会社の目標達成のため、販売サイクルを強化するために以下の戦略を実施する予定です。

- ローコード開発を使用して、
- データバースをその中核コンポーネントとする。
- 営業マネージャーが未回答の通信にアクセスできることを確認してください

見込み客を評価し、必要に応じて介入する。

- 以前の独自ソフトウェアを Dynamics 365 Sales に置き換えて

販売サイクルと顧客とのやり取りを追跡する。

- 営業担当者に Dynamics 365 Sales を使用して追跡させる

オープンな機会に関するやり取りを行い、フォローアップの連絡を送信します。

見込み客へ。

- 営業担当者にハンズフリーヘッドセットを使用して顧客とやり取りさせる

AIエージェントは、内部ポリシーや顧客に関する質問がある場合に

データ。

要件

インフラストラクチャ移行

Fabrikamは、以下のインフラストラクチャ移行要件を特定しました。

- 今後のすべてのインフラストラクチャワークロードにはAzureを使用する必要があります。
- 会社は、マイクロソフトが推奨する方法論に従わなければならない。

インフラストラクチャのクラウドへの移行。

- 作成されたAIエージェントはすべて、投資収益率（ROI）を確保する必要がある。
そのソリューションが会社のコスト削減につながるよう計算されている。

販売サイクルの実現

Fabrikamは、販売サイクルの実現に関して以下の要件を特定しました。

- 最終的なAIエージェントは、Microsoftの推奨事項に従う必要があります。

対話型のユーザーエクスペリエンス。

- AIエージェントが

準拠したソリューションを実現するために、マイクロソフトの導入推奨事項に従います。

- 最初に作成された AI エージェントの詳細なテレメトリをログに記録する必要があります。

初期AIエージェントのトラブルシューティングと最適化を支援します

採用プロセス。

- 予期せぬAIエージェントの行動は、ライブ配信へのエスカレーションで終了しなければならない

担当者。たとえば、営業担当者は

2回失敗した後もエージェントが質問に答えられない場合、担当者が対応します。

試み。

- 現在のプロセスから切り替えた場合の投資収益率（ROI）

今後のプロセスには、関係者の承認が必要となる。

- 営業チームは、Dynamics 365 Sales を使用して、

見込み客を現在よりも迅速かつ効率的に把握する。

- 営業マネージャーは、AIエージェントの導入状況を主要顧客に報告する必要があります

ファブリカムのステークホルダーに対し、毎月情報を提供する。

AIエージェントを介して共有されるユーザーIDや名前などの機密情報は、将来の監査のために追跡する必要があります。

営業担当者の要件を満たすAIエージェントには、どのテンプレートを使用すべきでしょうか？

A. Microsoft Copilot Studio の IT ヘルプデスク

B. Microsoft FoundryにおけるAIエージェント

C. Microsoft Copilot Studio の音声

D. Microsoft FoundryにおけるAIチャット

正解: [\(正解を表示します\)](#)

シナリオ：

販売サイクルの実現

ファブリカム社は、会社の目標達成のため、販売サイクルを強化するために以下の戦略を実施する予定です。

営業担当者にDynamics 365 Salesを使用して、進行中の商談に関するやり取りを追跡し、見込み客にフォローアップの連絡を送信するように指示してください。

*-> 営業担当者が社内ポリシーや顧客データに関する質問がある場合、ハンズフリーヘッドセットを使用してAIエージェントとやり取りできるようにする。

Dynamics 365 Sales の内部ポリシーや顧客データに関して、AI エージェントとのハンズフリー ヘッドセット操作を有効にするには、Microsoft Copilot Studio を使用してカスタム エージェント テンプレートを作成する必要があります。

推奨されるアプローチとテンプレートの内訳は以下のとおりです。

推奨テンプレート

音声対応エージェントテンプレート（Copilot Studio内） このテンプレートは、対話型音声応答（IVR）機能のための基本的な事前設定済みセットアップを提供し、自然言語による音声入力とテキスト読み上げ出力を可能にします。

内部データ知識ソース :このエージェント内で、Dataverse（顧客データ用）に接続し、知識ソース（内部ポリシー文書用）を設定します。

注記：

Microsoft Copilot Studio の音声エージェント テンプレートを使用して Dynamics 365 Sales 用のハンズフリー AI エージェントを実装するには、以下の手順に従って、内部ポリシーと顧客データに対する音声優先のインタラクションを有効にします。

1. 音声対応エージェントを作成する
2. ハンズフリー操作の設定
3. 内部データに接続する

参照：

<https://learn.microsoft.com/en-us/dynamics365/contact-center/administer/bot-scenario-configure>

質問: 59

あなたは、Microsoft Dynamics 365 カスタマーサービス担当者をサポートする Microsoft Copilot Studio エージェントを評価しています。

以下の要件を満たすテストソリューションを推奨する必要があります。

アクティブセッション中の薬剤の有効性を評価する

エージェントが正確で役立つ回答を提供しているかどうかを検証します。

継続的な改善のための、測定可能で実用的な洞察を提供する

何をおすすめしますか？

- A. ダッシュボードを使用して解決率、偏向、精度を追跡し、スクリプトを使用して一貫した応答を確保します。
- B. 負荷テストを実施して、チャット量が多い状況下でエージェントがどのようにスケーリングするかを検証します。
- C. 過去のチケットを確認し、解決時間が最も短いエージェントを見つけます。
- D. 稼働時間とページ読み込み時間を測定します。

正解: ([正解を表示します](#))

Agentic AI Business Solutionsによる包括的かつ詳細な解説トピック：

正解はAです。ダッシュボードを使用して解決率、偏向、精度を追跡し、スクリプトを使用して一貫した応答を確保します。

この質問は、技術的な稼働時間やインフラストラクチャのパフォーマンスをテストするだけでなく、実際のサポート業務におけるCopilot Studioエージェントの評価に関するものです。要件では、次の3点が特に重視されています。

* アクティブセッション中の有効性

* 回答の正確性と有用性

* 継続的な改善のための測定可能な洞察

その組み合わせは、運用品質指標と分析ダッシュボードを示唆している。

Aが正しい理由

解決率、回避率、精度を追跡することで、エージェントが実際のサポート会話でどれだけ優れたパフォーマンスを発揮しているかを直接測定できます。

* 解決済みとは、問題が正常に処理されたかどうかを示します。

* 偏向は、エージェントが人間の作業負荷を適切に軽減しているかどうかを示します。

* 正確性は、回答が正しいか、役に立つかを示します。

ダッシュボードを使用することで、リーダーやサポートチームはエージェントの行動を継続的に、かつ測定可能な形で把握できます。さらに、一貫したテストのためのスクリプトを追加することで、再現性のある評価と改善が促進されます。

AIビジネスソリューションの観点から見ると、これは以下の要素を兼ね備えているため、適切な推奨事項と言えます。

* ビジネス成果の測定

* 品質検証

* 運用分析

* 継続的改善フィードバックループ

これはまさに、エンタープライズ向けコパイロットを導入後に管理すべき方法である。

他の選択肢が間違っている理由

B) 負荷テストを実行して、チャット量が多い場合にエージェントがどのようにスケーリングするかを検証します。負荷テストはスケーラビリティとキャパシティプランニングに役立ちますが、ビジネス成果の観点から、アクティブなセッション中に応答が正確、有益、または効果的であるかどうかを直接検証するものではありません。

C) 過去のチケットをレビューして、解決時間が最も短いエージェントを見つける。これは過去の状況のある程度把握するのに役立つかもしれないが、アクティブなセッション中のCopilot Studioエージェントを直接評価するものではなく、解決時間が最短であることだけでは応答の質や有用性を証明するものではない。

D) 稼働時間とページ読み込み時間を測定する

これらはインフラストラクチャと可用性に関する指標です。システムの健全性を判断する上で重要ですが、会話の有効性や回答の質を評価するものではありません。

専門家の推論

副操縦士の評価に関する質問：

* 目標がアクティブセッションにおける業務効率化である場合は、解決率/回避率/精度を使用します。

* 目標がシステムの拡張である場合は、負荷テストを使用してください。

* インフラストラクチャの信頼性が目標であれば、稼働時間とレイテンシを使用します。

質問: 60

ある企業は、Azure OpenAIのリソースを利用して応答を生成するMicrosoft Foundryエージェントを導入している。これらのエージェントは、米国とヨーロッパの両方に展開されている。

会社の規定では、エージェントとその関連データは、データ所在地およびデータ移動に関する規制を遵守しなければならないと定められている。

エージェント向けのガバナンスソリューションを提案する必要があります。

推奨状には何を含めるべきでしょうか？

A. Microsoft Defender for Cloud

B. Azureポリシー

C. Azure Monitor

D. マイクロソフトの視点

正解: ([正解を表示します](#))

<https://learn.microsoft.com/en-us/azure/governance/policy/overview>

質問: 61

顧客サポート用のMicrosoft Copilot Studioエージェントを設計する必要があります。

エージェントは、REST APIから製品保証データを安全に取得する必要があります。ソリューションは開発作業を最小限に抑える必要があります。設計には何を含めるべきでしょうか？

A. Microsoft Power Automate デスクトップフローを使用して、保証データを画面からスクレイピングします。

B. エージェントを管理ソリューションとしてエクスポートし、Power Apps でエージェントをカスタマイズします。

C. フォールバックトピックに保証データを追加します。

D. Copilot Studioでカスタムコネクタを作成し、そのコネクタを使用してAPIを呼び出します。

正解: ([正解を表示します](#))

要件は、開発作業を最小限に抑えつつ、REST API から製品保証データを安全に取得できる Microsoft Copilot Studio エージェントを構築することです。

最適な選択肢はDです。Copilot Studioでカスタムコネクタを作成し、そのコネクタを使用してAPIを呼び出します。

これが正しい理由：

カスタムコネクタは、Copilot StudioとREST APIを統合するための標準的なローコード方式です。これにより、エージェントはサポートされている認証方法を使用して、大規模なカスタム開発を必要とせずに、外部保証サービスを安全に呼び出すことができます。これは、以下の2つの重要な要件を直接満たします。

- * 保証データの安全な取得
- * 最小限の開発労力

他の選択肢が間違っている理由：

- * A. Microsoft Power Automate デスクトップ フローを使用して、保証データを画面スクレイピングします。画面スクレイピングは脆弱でセキュリティが低く、REST API が既に存在する場合は不要です。
- * B. エージェントを管理ソリューションとしてエクスポートし、Power Apps でエージェントをカスタマイズします。ただし、これは安全な API アクセスの問題を直接解決するものではなく、不要な複雑さを増大させるだけです。
- * C. 保証データをフォールバック トピックに追加します。フォールバック トピックは、不明瞭なユーザー入力に対応するためのものであり、外部データの安全なリアルタイム取得には使用しないでください。

有効的な**AB-100**問題集はJPNTest.com提供され、**AB-100**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**AB-100**試験問題集を提供します。JPNTest.com AB-100試験問題集はもう更新されました。ここで**AB-100**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/AB-100-mondaishu> **147**問、**30%ディスカウント**、特別な割引コード：**JPNshiken**」

質問: **62**

ある企業は、Microsoft FoundryのジェネレーティブAIモデルを保有している。

生成された応答の全体的な品質と一貫性を測定するために、モデルの出力を評価する必要があります。評価にはGPT-4oを判定者として使用し、各出力に対して数値スコアを返す必要があります。どのタイプの指標を使用すべきでしょうか？

- A. リスクと安全性
- B. AI品質 (AI支援)
- C. AI品質 (NLP)
- D. 地に足の着いた感覚

正解: ([正解を表示します](#))

質問: **63**

ある企業が、既存のAIモデルを導入することでビジネスプロセスの手作業を削減するMicrosoft Power Platformソリューションを設計しています。ソリューションのメタデータとテレメトリを特定して、AI投資収益率 (ROAI) を計算する必要があります。何を使用すればよいでしょうか？

- A. ビジネス価値ツールキット
- B. Microsoft Cloud Adoption Framework for Azure
- C. Microsoft Power Platform 管理センター
- D. デザインによる成功

正解: ([正解を表示します](#))

ビジネス価値ツールキット (マイクロソフトのPower PlatformおよびAI変革ガイダンスの一部) は、以下の条件を満たす唯一の選択肢です。

- * AI投資収益率 (ROAI) の計算に役立ちます
- * メタデータ、テレメトリ、および使用状況分析を使用します

* 価値追跡、労力削減、自動化の影響、財務的正当性に関する構造化されたテンプレートを提供します。AIおよび自動化ソリューションのビジネスへの影響を定量化するために明確に設計されています。

質問: 64

Microsoft CopilotエージェントをMicrosoft Dynamics 365 Contact Centerのチャットチャンネルと統合するためのソリューションを提案する必要があります。担当者は顧客からの質問に回答し、顧客がエスカレーションを要求した場合は、担当者をライブのカスタマーサービス担当者に引き継ぐ必要があります。何をすすめますか？

- A. エージェントフローを構築します。
- B. 会話開始トピックを設定します。
- C. スキルを設定します。
- D. Microsoft Power Automateコネクタを呼び出します。
- E. エスカレーショントピックを設定します。

正解: **E** ([コメントを发表する](#))

Microsoft Copilot エージェントから Dynamics の担当者へ会話を引き継ぐ

365 Contact Centerでは、エスカレーションシステムトピックに会話転送ノードを含めるように設定する必要があります。これにより、顧客がエスカレーションを要求した際に、エージェントがチャット履歴とコンテキスト全体をライブエージェントにシームレスに渡すことができます。

エスカレーショントピックの設定手順

エスカレーション トピックを開く: Microsoft Copilot Studio で、[トピック] に移動し、[システム] タブを選択して、[エスカレーション] トピックを開きます。

転送ノードを追加する:

ワークフローに合わない場合は、デフォルトの「担当者がいません」メッセージを削除してください。

ノード追加アイコン (+) を選択し、トピック管理に移動して、「会話の転送」を選択します。

コンテキストを含める オプション) ノード内でエージェントへのプライベートメッセージを追加できます。このメッセージは担当者のみに表示され、顧客のニーズを迅速に理解するのに役立ちます。

保存と公開: 変更内容を保存し、エージェントを公開して新しいエスカレーションロジックを適用します。

参照:

<https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-copilot-studio/advanced-hand-off>

質問: 65

ある企業はMicrosoft 365とDynamics 365を使用しています。

メールのスレッドを自動的に要約し、Microsoft Outlookで返信候補を生成し、関連する顧客関係管理 (CRM) データを含む会議準備の要約を提供するソリューションを提案する必要があります。

解決策: 従来のMicrosoft Dataverseワークフローを推奨します。

これは目標を達成していると言えるでしょうか？

- A. はい
- B. いいえ

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 66

ある企業は、Microsoft Copilotが有効になっているMicrosoft Dynamics 365 Sales環境を運用しています。

商談概要の生成方法やユーザーへの表示方法をカスタマイズすることで、Copilotをカスタマイズする必要があります。

解決策: AI Builderのリードスコアリングモデルを設定して、商談概要に影響を与えるようにします。これで目標は達成されますか？

- A. はい

B. いいえ

正解: ([正解を表示します](#))

AI Builderのリードスコアリングモデルは、リードのスコアリングと優先順位付けに使用されます。ただし、Dynamics 365 Sales Copilotにおける商談概要の生成方法や表示方法を制御するものではありません。

この要件は、具体的にはカスタマイズに関するものです。

* 機会概要がどのように生成されるか、または

* ユーザーに提示する方法

リードスコアリングモデルの設定は、リードの適格性に関するインサイトに影響を与えますが、Copilotの商談概要生成やプレゼンテーションレイヤーには影響しません。

質問: 67

ある企業は、Azure OpenAIのリソースを利用して応答を生成するMicrosoft Foundryエージェントを導入している。これらのエージェントは、米国とヨーロッパの両方に展開されている。

会社の規定では、エージェントとその関連データは、データ所在地およびデータ移動に関する規制を遵守しなければならないと定められている。

エージェント向けのガバナンスソリューションを提案する必要があります。

推薦状には何を含めるべきでしょうか？

A. Microsoft Defender for Cloud

B. Azureポリシー

C. Azure Monitor

D. マイクロソフトの視点

正解: ([正解を表示します](#))

Agentic AI Business Solutionsによる包括的かつ詳細な解説トピック：

正解はB. Azure Policyです。

このシナリオは、地域をまたいだデータ所在地のガバナンスとデータ移動のコンプライアンスに関するものです。エージェントはAzure OpenAIリソースを使用し、米国とヨーロッパの両方に展開されているため、組織はリソースの展開場所を強制し、承認された地理的境界内にリソースが留まるようにするための制御を必要としています。

Bが正しい理由

Azure Policy は、リソースのデプロイと構成に関する組織的なルールを適用するために使用される Azure ネイティブのガバナンス サービスであるため、適切な推奨事項です。

データ所在地および移動に関する規制については、Azure Policy を以下の目的で使用できます。

* 承認済みの Azure リージョンにデプロイを制限する

* 承認されていない場所でのリソースの作成を拒否する

* コンプライアンス要件に関連する構成基準を強制する

* サブスクリプションとリソースグループ全体にわたる大規模なガバナンスをサポートする

AIビジネスソリューションの観点から見ると、これは重要です。なぜなら、データ所在地のルールは、AIリソースと関連サービスの実行場所によって適用されることが多いからです。エージェントとその基盤となるサービスを特定の地域に留めておく必要がある場合、Azure Policyが最も直接的な予防策となります。

これは特に、以下のような多国籍AI導入において重要です。

* 欧州のデータは欧州に留まる必要がある場合があります

* 米国におけるワークロードは、米国が承認した地域に留まる必要がある場合があります。

* 接地データアクセスパターンは、地域のガバナンス規則に準拠する必要があります。

組織は手動による審査ではなく、自動化された執行を必要としている。

Azure Policyは、これらのガバナンス要件を一貫して運用するのに役立ちます。

他の選択肢が間違っている理由

A) Microsoft Defender for Cloud

Defender for Cloudは、セキュリティ態勢の管理、推奨事項の提示、継続的なコンプライアンスの可視化に優れていますが、居住地に関連する地域展開制限を適用するための主要なサービスではありません。

C). Azure Monitor

Azure Monitor は、テレメトリ、メトリック、ログのためのツールです。アクティビティの監視には役立ちますが、データの所在やデプロイリージョンのガバナンスを強制するものではありません。

D). マイクロソフトビュー

Microsoft Purview は、データガバナンス、分類、コンプライアンス、監査において重要ですが、今回の質問は、デプロイされた AI リソースの所在地および移動に関する規制を遵守し、データを地上に保持することに焦点を当てています。Azure Policy は、場所と構成の制御を強制できるため、これに対する最も直接的な Azure ガバナンス メカニズムです。

専門家の推論

この試験対策方法を使ってください：

* Azureリソースをデプロイできる場所を強制する必要がある # Azure Policy

* テレメトリ/モニタリングが必要 # Azure Monitor

* セキュリティ体制/コンプライアンスの可視性が必要 # Defender for Cloud

* データ分類とガバナンスカタログ化が必要 # Microsoft Purview

質問: 68

インフラ移行にはどのフレームワークを使用すべきでしょうか？

A. Microsoft Azure 向けクラウド導入フレームワーク

B. デザインによる成功

C. マイクロソフト Power Platform センター ・オブ ・エクセレンス (CoE)

D. Microsoft Power Platform プロジェクトセットアップウィザード

正解: ([正解を表示します](#))

Agentic AI Business Solutionsによる包括的かつ詳細な解説トピック：

正解はAです。Microsoft Cloud Adoption Framework for Azure。

このシナリオでは、Fabrikamは完全なオンプレミス環境から完全なクラウドベースのトポロジーに移行しており、要件には明確に次のことが規定されています。

* 今後のすべてのインフラストラクチャワークロードにはAzureを使用する必要があります

* 会社は、クラウドへのインフラストラクチャ移行に関して、マイクロソフトが推奨する方法論に従わなければなりません。この文言は、Azure 用の Microsoft Cloud Adoption Framework を直接指しています。

クラウド導入フレームワークは、企業のクラウド移行の計画と実行に関するマイクロソフトの主要なガイダンスです。これは単なる技術的な移行チェックリストではなく、組織がワークロードを構造的かつ統制された方法でAzureに移行できるよう支援する包括的な戦略的フレームワークです。このフレームワークは、次のような主要な領域を網羅しています。

* 移行戦略

* 準備状況評価

* ガバナンス

* 身元確認とセキュリティ計画

* 着陸地点

* 業務管理

組織の整合性

* 養子縁組計画

AIを活用したビジネスソリューションの観点から見ると、これは非常に重要です。なぜなら、AIソリューションは基盤となるインフラストラクチャが適切に近代化されて初めて成功するからです。Fabrikamの目標には、クラウド移行、Dataverseの統合、Dynamics 365 Salesの導入、そしてAIファーストのビジネスオペレーションが含まれます。これらはすべて、強固なAzureベースのクラウド基盤に依存しています。クラウド導入フレームワークは、この変革が拡張性、セキュリティ、そしてビジネス成果との整合性を確保した形で実行されることを保証するのに役立ちます。

他の選択肢が間違っている理由：

B) 計画による成功

このフレームワークは、主にビジネスアプリケーションの設計と実装において、導入率、使いやすさ、ソリューション品質を向上させるために使用されます。対話型エクスペリエンス、アプリケーションの展開、Dynamics 365やCopilot関連の実装など、ユーザーがソリューションから価値を得られるようにすることに非常に有効です。ただし、Azureへのインフラストラクチャ移行のための主要なフレームワークではありません。

C) マイクロソフト Power Platform センター オブ エクセレンス (CoE)

CoE センター オブ エクセレンス)は、組織全体におけるPower Platformの利用に関するガバナンス、モニタリング、ベストプラクティス、および有効化を確立するために使用されます。Power Platform環境全体におけるメーカー、アプリ、フロー、および導入の管理に役立ちます。導入開始後には有用ですが、エンタープライズインフラストラクチャをAzureに移行するためのフレームワークではありません。

D). Microsoft Power Platform プロジェクトセットアップウィザード

これは、Power Platform の実装におけるプロジェクトのセットアップと構成を支援するものであり、組織のインフラストラクチャをオンプレミスシステムから Azure に移行するためのエンタープライズ規模の移行ガイダンスを提供するものではありません。

専門家の推論：

インフラストラクチャ移行、Azure、およびマイクロソフト推奨の方法論に関する質問があった場合、ほぼ間違いなくMicrosoft Cloud Adoption Framework for Azureが最適です。マイクロソフトのソリューションアーキテクチャやAIビジネス変革のシナリオにおいて、このフレームワークはクラウド移行の計画と実行における標準的なソリューションとなっています。

トピック2、コントソ社

概要

Contoso. Ltd は、Microsoft Dynamics 365 Finance、Dynamics 365 を使用するハイテク製造会社です。

同社は、北米事業向けにDynamics 365 Supply Chain ManagementおよびDynamics 365 Commerceを導入している。同社は、多数の特許と独自の技術を保有する革新的な製品を設計・開発している。これらの特許および設計は、厳重に保護された企業秘密である。

Contosoの経営陣は、予想される急速な成長期に備え、会社の規模拡大を支援するためにAIソリューションを統合・導入したいと考えている。

同社は複数の法人とAzureサブスクリプションを保有しており、これらは採用されるAIソリューションに活用される予定です。

AIの導入

以下の役員は、AI導入全体において具体的な責任を担います。

* 最高技術責任者 (CTO): 初期の AI 導入フェーズで優先的に展開するために、Dynamics 365 Finance、Dynamics 365 Supply Chain Management、または Dynamics 365 Commerce の事前構築済み AI エージェントを 1 つと、カスタムの Microsoft Copilot Studio AI エージェントを 1 つ選択します。

* 最高情報責任者 (CIO) AIエージェントが使用するデータに適切なセキュリティラベルが割り当てられていることを確認する。

* 最高財務責任者 (CFO) : 導入されるAIエージェントの投資収益率 (ROI)を分析する。

* 最高情報セキュリティ責任者 (CISO) : 監査用のAIリソースを発見し、目録を作成する。

* 最高経営責任者 (CEO) すべてのソリューションが業界標準の責任あるAIの実践に準拠していることを確認する。

すべてのAIイニシアチブとエージェントには、詳細なビジネスユースケース、明確な対象ユーザープロファイル、および現在のプロセスのコスト削減額と新しいAIソリューションを使用した場合の推定コストを比較する推定ROIが設定されます。

同社の研究開発 (R&D) 部門は既に、包括的な製品仕様とコンプライアンスデータを含むカスタムのモデルコンテキストプロトコル (MCP)サーバーを保有している。

事前構築済みAIエージェント

CTOは、Dynamics 365 Supply Chain Managementで使用する事前構築済みのAIエージェントをまだ選択していません。CTOは、利用可能なエージェントテンプレートを確認し、どのエージェントが最もビジネス価値を高めるかを特定したいと考えています。

優先度の高いAIエージェントが特定された場合、関連する事業運営関係者との検討会議において、そのエージェントの機能を事前に確認する必要がある。

カスタムAIエージェント

Contosoは、以下のカスタムAIエージェントの要件を特定しました。

- * カスタムAIエージェントは、Dynamics 365 Supply Chain Managementのデータを使用して、ローコードソリューションとして製造チームからの質問に回答します。
 - * カスタムAIエージェントは、Microsoft Teams内からアクセスできます。
 - * カスタムAIエージェントは、最終的に、その説明に基づいて選択可能な他のエージェントに接続するように設計する必要があります。
 - * カスタムAIエージェントで使用されるトピックは、トリガーフレーズではなく、クエリの目的の説明に基づいて選択され、より会話的なやり取りを実現します。
 - * 開発中のAIエージェントは、既存の技術を用いて製品仕様に関する質問に答えることができません。製品仕様は研究開発部門が管理しています。
 - * カスタムAIエージェントは、Dynamics 365 Supply Chain Managementと統合され、そこからアクセスできる必要があります。
 - * カスタムAIエージェントは、アプリケーション外部に保存されているDynamics 365 Supply Chain Managementのビジネスロジックを使用できる必要があります。
- 分析、報告、およびトラブルシューティング
- Contosoは、以下の分析、報告、およびトラブルシューティングに関する要件を特定しました。
- * CISOは、コンプライアンスとセキュリティの観点から、すべてのAIソリューションを毎月監査します。
 - * 最高財務責任者（CFO）は、すべてのAIソリューションを四半期ごとに分析し、推定ROIと実際の測定された効率性および導入状況を比較します。CFOはこの分析にCopilot Studioのエージェント使用状況推定ツールを使用します。
 - * CISOは、特定のAIエージェントの実行時にどれだけの機密データがアクセスされたか、そして誰がそのデータにアクセスしたかを特定したいと考えています。1人のユーザーによる機密データへのアクセス量が多すぎる場合、セキュリティリスクが高いことを示している可能性があります。
 - * CTOは、ユーザーがAIエージェントとやり取りする際の応答品質に関するユーザーからのフィードバックを追跡したいと考えています。継続的に低いフィードバックが寄せられた場合は、より高度な再設計に関する議論が開始されます。
 - * CEOは、各自の担当業務に必要なすべての指標について、四半期ごとの評価を求めている。評価に使用するツールは、マイクロソフトが推奨するものでなければならず、信頼性、解釈可能性、公平性、およびコンプライアンスが検証されている必要がある。
 - * CFOは、特定の日にAIエージェントとのやり取りのうち、解決済みの会話と比較してどれだけのやり取りが放棄されているかを把握したいと考えています。放棄されたセッションが多すぎる場合、エンドユーザーによるCopilot Studioクレジットの非効率的な使用を示している可能性があります。
- ケーススタディの質問

有効的な**AB-100**問題集はJPNTest.com提供され、**AB-100**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**AB-100**試験問題集を提供します。JPNTest.com AB-100試験問題集はもう更新されました。ここで**AB-100**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/AB-100-mondaishu> **147**問、**30%ディスカウント**、特別な割引コード：**JPNshiken**」